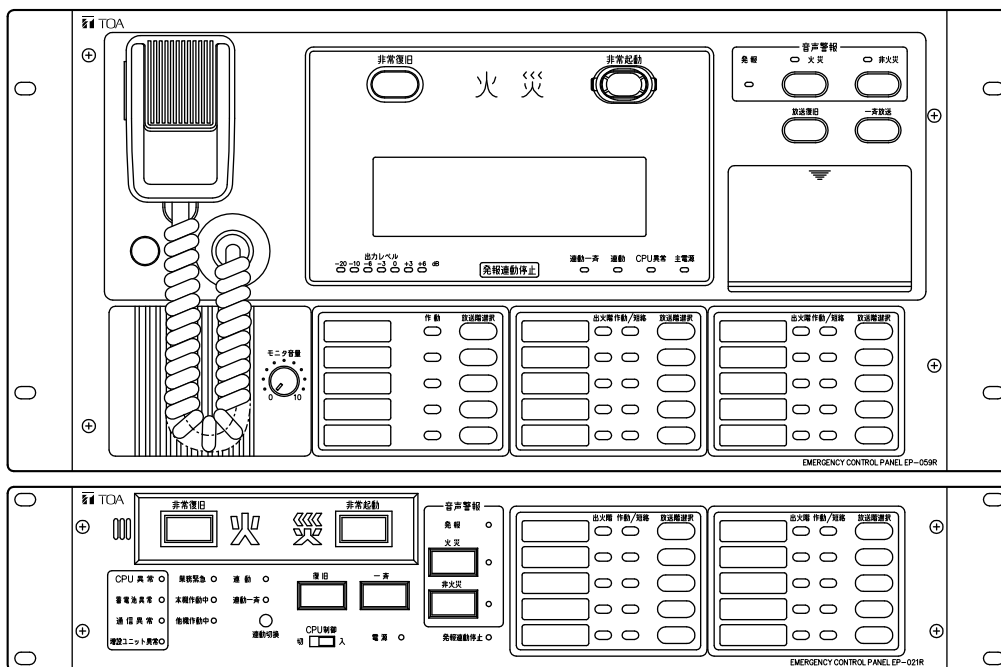


非常業務兼用遠隔操作器 多棟型集中監視システム

型名 RM-975



ご注意

非常用遠隔操作器の非常時の動作は、本体非常用放送設備の動作に準じます。
非常用放送設備の動作は、型式ごとに異なる場合がありますので、非常時の動作について本体取扱説明書等によりご確認ください。

この取扱説明書は、各種機能を備えた標準セットを基準として作成していますので、実装されていないユニットが記載されていることがあります。あらかじめご了承ください。

目次

| | | | |
|---|----|--|----|
| 保守契約のおすすめ | 3 | 業務放送のしかた | |
| 安全上のご注意 | 4 | マイクロホンによる案内放送 | 23 |
| ニカド電池のリサイクルについて | 6 | 業務グループ放送 | 24 |
| 使用上のご注意 | 6 | 1. 本体グループ放送 | 24 |
| 機器構成 | 7 | 2. 本体緊急グループ放送 | 24 |
| 各部の名称とはたらき | | 3. 非常業務兼用 遠隔操作器(非常リモコン) グループ放送 | 24 |
| 非常業務兼用 遠隔操作パネル EP-059R/EP-059R CPU 制御部 | 8 | 4. 非常リモコン緊急グループ放送 | 24 |
| 非常業務兼用 集中遠隔操作パネル EP-021R | 9 | 5. 業務リモコングループ放送 | 24 |
| マイク出力選択パネル MS-011 | 12 | 6. 業務リモコン緊急グループ放送 | 25 |
| モニターパネル MP-021 | 12 | 7. タイマー(緊急)グループ放送 | 25 |
| 遠隔操作器用 非常電源パネル DS-029R | 13 | 8. 音声ファイル(緊急)グループ放送 | 25 |
| 遠隔操作器用 非常電源監視パネル BM-011 | 13 | 業務一斉放送について | 25 |
| 非常時の操作手順 | | 本体 BGM 放送について | 26 |
| 自火報感知器起動による非常放送 | 14 | ● 本体 BGM 放送のしかた | 26 |
| 非常電話/発信機起動による非常放送 | 16 | ● 非常業務兼用 遠隔操作器(非常リモコン) からの本体 BGM 放送のしかた | 27 |
| 手動による非常放送 | 18 | ● 本体 BGM 放送を行うことができる機器 | 27 |
| ● 音声警報メッセージ | 21 | 記名カードの使いかた | 27 |
| ● 非常業務兼用 遠隔操作パネル EP-059R の LCD(液晶)パネルの表示 | 21 | 日常点検 | |
| 非常時のマイク放送 | 22 | 手動点検 | |
| マイクで業務放送時に 非常起動をかけるとき | 22 | BM-011 による本体非常電源電圧の確認 | 28 |
| | | DS-029R による電源電圧の確認 | 28 |
| | | 自動点検 | |
| | | ● CPU 異常 | 29 |
| | | ● 蓄電池異常 | 30 |
| | | ● EP029 異常 | 31 |
| | | ● 通信異常 | 32 |
| | | ニカド電池の交換について | 33 |

保守契約のおすすめ

- 非常用放送設備の保守点検は、消防法で義務づけられています。自ら点検できないお客様に代って専門技術者が契約によって定期点検を行います。
- 保守契約は、設置時に納入業者にお申し付けくださるのが便利です。すでに設置済みであるにもかかわらず契約されていないお客様はお急ぎください。
- 保守契約には設備予算以外に費用がかかりますので、別途計上してください。





安全上のご注意

- ご使用の前に、この欄を必ずお読みになり正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、いつでも見られる所に必ず保管してください。

表示について

ここでは、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

図記号について

| 行為を禁止する記号 | 行為を強制する記号 |
|--|--|
|  分解禁止 |  強制 |
|  禁止 |  電源プラグを抜く |



警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

設置・据付をするとき

水にぬらさない

本機に水が入ったりしないよう、また、ぬらさないようご注意ください。
火災・感電の原因となります。



禁止

指定外の電源電圧で使用しない

表示された電源電圧を超えた電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。



禁止

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたりしないでください。
また、コードの上に重いものをのせないでください。
火災・感電の原因となります。



禁止

使用するとき

万一、異常が起きたら

次の場合、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

- 煙が出ている、変なにおいがするとき
- 内部に水や異物が入ったとき
- 落としたり、ケースを破損したとき
- 電源コードが傷んだとき（心線の露出、断線など）
- 音が出ないとき



電源プラグを抜く

内部を開けない、改造しない

内部には電圧の高い部分があり、ケースを開けたり、改造したりすると、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。



分解禁止



警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

使用するとき

液体の入った容器や小さな金属物を上に置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。



禁止

内部に異物を入れない

本機の通風口などから内部に金属類や燃えやすいものなど、異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。



禁止



注意

誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

設置・据付をするとき

ぬれた手で電源プラグをさわらない

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となることがあります。



禁止

通風口をふさがない

通風口をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。



禁止

湿気やほこりの多い場所などに置かない

湿気やほこりの多い場所、直射日光のあたる場所や熱器具の近く、油煙や湯気のあたるような場所に置かないでください。
火災・感電の原因となることがあります。



禁止

使用するとき

ニカド電池の取り扱いに注意する

次のことを必ずお守りください。

守らないと、電池の液もれ・破裂により、火災・けがの原因となることがあります。

- ショート・分解・加熱をしたり、火の中に入れてたりしない。
- 電池に直接はんだ付けしない。
- 指定した電池を使用する。
- (+)と(-)に注意し、表示どおり正しく入れる。
- 直射日光・高温・高湿の場所を避けて保管する。



強制

ニカド電池のリサイクルについて



Ni-Cd

ニカド電池のリサイクルにご協力ください

本機にはニカド電池を使用しています。

ニカド電池はリサイクルが可能な、貴重な資源です。

ニカド電池の交換および使用済み製品の廃棄に際しては、ニカド電池を取り出し、リサイクルへご協力ください。

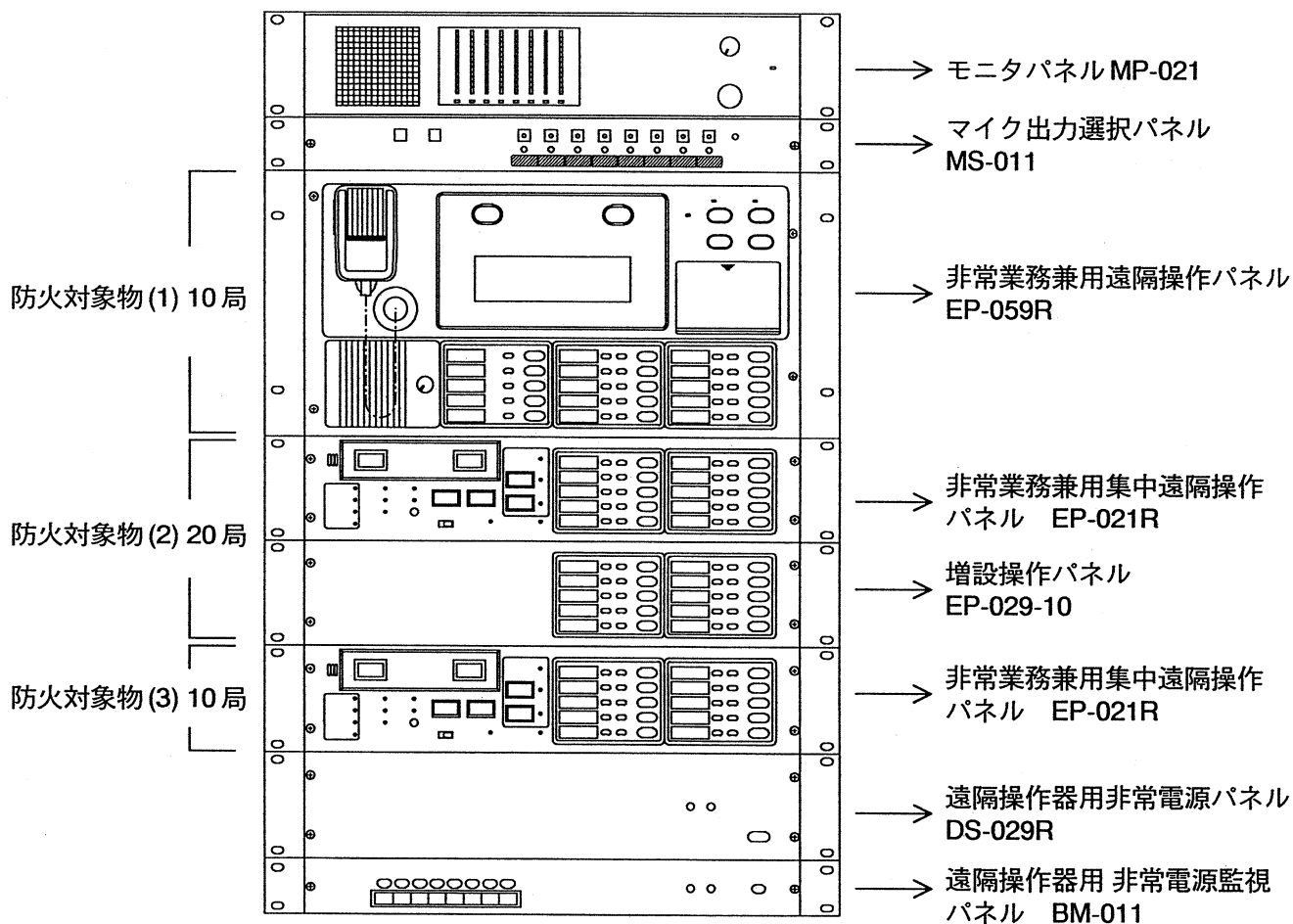
使用済みのニカド電池は、捨てないで、お買い上げ店または当社営業所へ返却してください。

使用上のご注意

- 汚れは柔らかい布で軽くふいてください。
本機を清掃するときには、必ず電源を切ってから、乾いた柔らかい布でふいてください。また、ひどい汚れは中性洗剤をしみこませた布を使用してください。ベンジン・シンナー・アルコール類・化学ぞうきんなどは絶対に使用しないでください。変形や変色の原因になります。
- 「非常時の操作手順」は、本機の近くに置いてください。
設定モードに応じた操作手順書をよく見える所に置いてください。
「非常時の操作手順」は、EP-059Rに付属しています。
- 本機は認定品ですので、絶対に改造しないでください。

機器構成

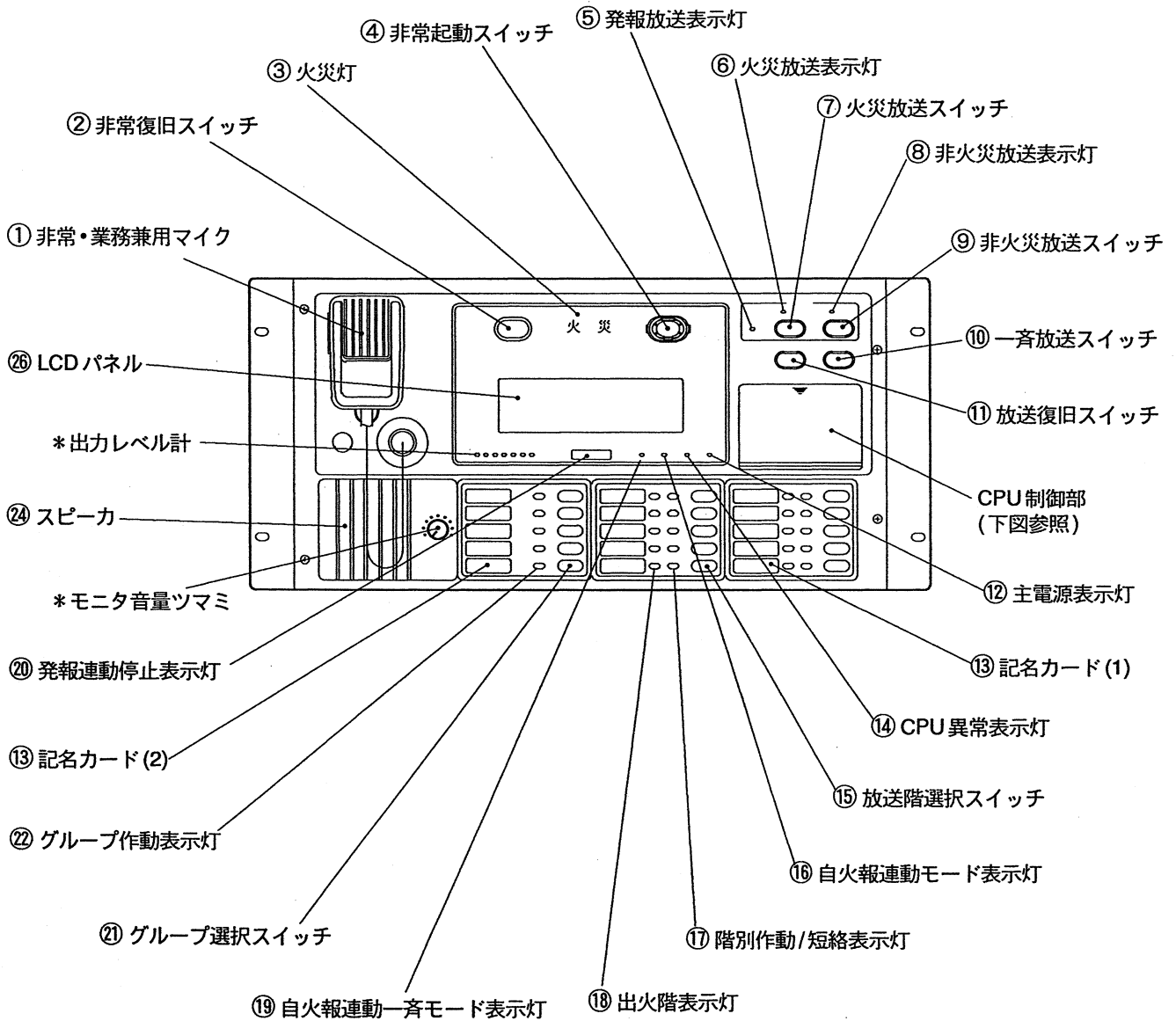
下図はRM-975で3か所の防火対象物を制御するときの機器の構成例です。



- 最大8か所の防火対象物を制御することができます。そのときの基本の操作パネルは、EP-059R 1台およびEP-021R 7台の構成となります。
- 増設操作パネルの数は、制御する防火対象物によって増減します。(構成にないときもあります。)
- 増設操作パネルは20局のタイプ(EP-029-20)もあります。
- 非常電源パネルおよび非常電源監視パネルの数は、構成される機器によって変わります。
- 制御できる最大局数は、EP-059R, EP-021R, EP-029-10/-20を合計して400局です。

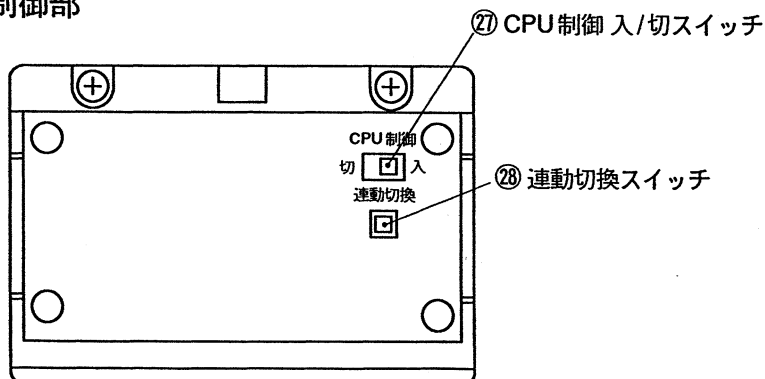
各部の名称とはたらき

■ 非常業務兼用遠隔操作パネル EP-059R

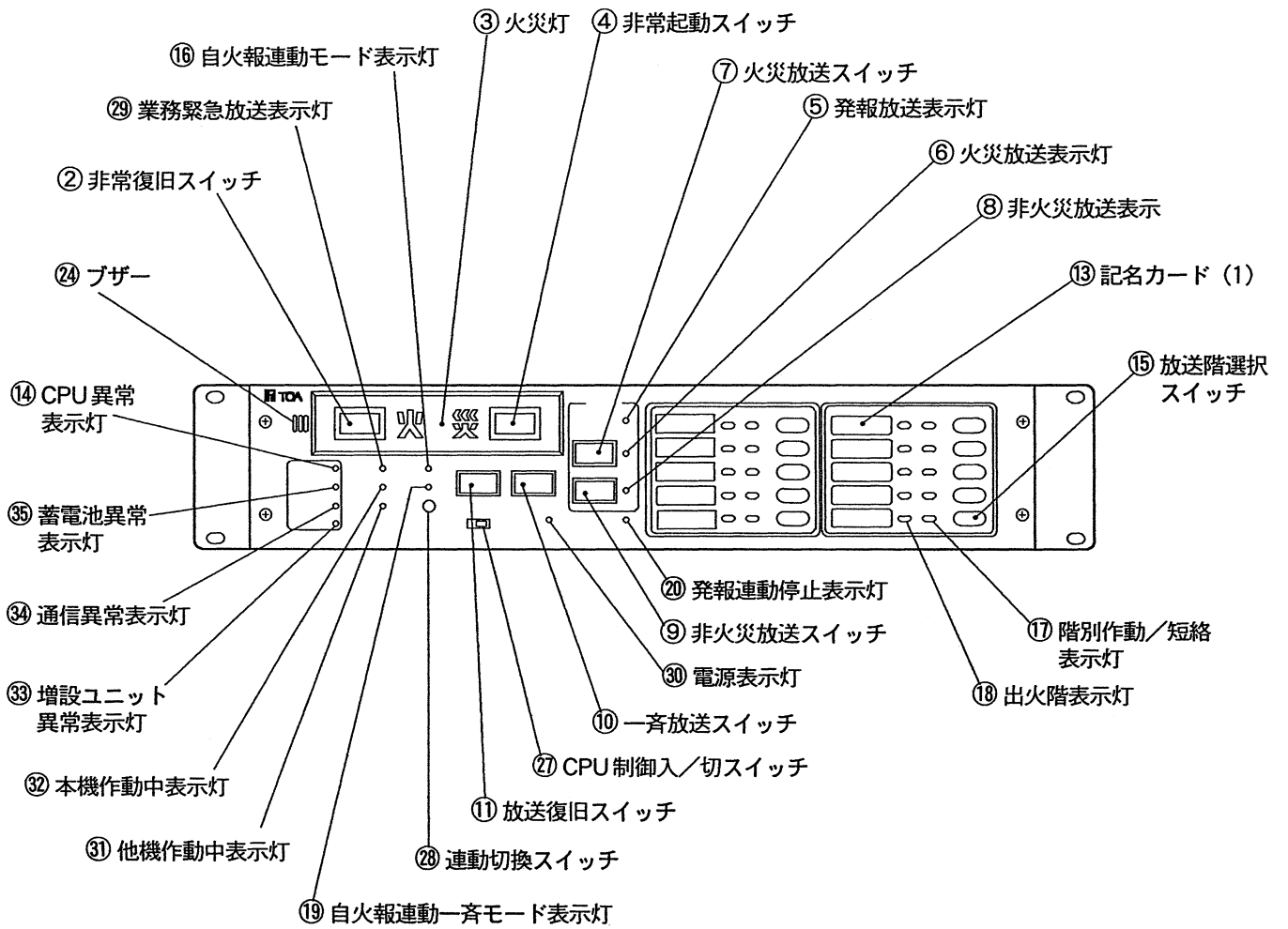


*出力レベル計と*モニタ音量つまミは、本システムでは使用(動作)しません。

● EP-059R CPU制御部



非常業務兼用集中遠隔操作パネル EP-021R



① 非常・業務兼用マイク (EP-059Rのみ)

マイクのトークスイッチを押しながら、マイク放送をします。非常時は、マイク放送が最優先となります。

② 非常復旧スイッチ

非常状態が解除されたことを確認し、感知器/非常電話/発信機を復旧させた後に押します。

③ 火災灯

自火報(自動火災報知設備)の感知器、非常電話、または発信機によって起動がかかると、自動的に点灯します。

また、手動で非常起動スイッチを押したときに点灯します。感知器発報放送中、火災放送中、または非火災報放送中は点灯したままで、感知器/非常電話/発信機が復旧した後に非常復旧スイッチを押すと消灯します。

④ 非常起動スイッチ

手動で非常放送を起動するとき、また、手動で感知器発報放送から火災放送へ移行するときに押します。EP-059Rを使用しているときは、このスイッチの保護カバーを突きやぶりながら押します。

⑤ 発報放送表示灯

この表示等は、次の感知器発報放送の状態を示しています。

点滅時：感知器発報放送の前後

点灯時：感知器発報放送中

⑥ 火災放送表示灯

この表示等は、次の火災放送の状態を示しています。

点滅時：第2シグナル鳴動中

点灯時：火災放送中

⑦ 火災放送スイッチ

火災が確認され、火災放送を起動するときに押します。

⑧ 非火災放送表示灯

この表示灯は、次の非火災報放送の状態を示しています。

点滅時：非火災報放送の後

点灯時：非火災報放送中

⑨ 非火災放送スイッチ

非火災が確認され、非火災報放送を起動するときに押します。

⑩ 一斉放送スイッチ

非常放送または業務放送時に、防火対象物ごとの全区域に一斉放送するときに押します。

⑪ 放送復旧スイッチ

非常放送時：放送選択を復旧するときに押します。

業務放送時：業務放送終了時に押します。

⑫ 主電源表示灯 (EP-059Rのみ)

主電源が動作したときに点灯します。

※ 非常電源(DC24V)で使用中は消灯します。

⑬ 記名カード

(1) 放送階選択スイッチの名称を記入します。

(2) グループ選択スイッチの名称を記入します。

(EP-059Rのみ)

⑭ CPU異常表示灯

コンピュータ回路に異常が発生すると、点灯または点滅します。

⑮ 放送階選択スイッチ

非常放送または業務放送時、階別・系統別に放送するときに押します。業務放送時は、放送の終了後に再度押して復旧させます。

⑯ 自火報連動モード表示灯

自火報(自動火災報知設備)等との連動モードを設定したときに点灯します。

⑰ 階別作動/短絡表示灯

この表示灯は、次の放送中またはスピーカ回線の短絡を示します。

緑色点灯時：点灯している放送階が放送中であることを示します。

赤色点灯時：点灯している放送階へのスピーカ回線が短絡していることを示しています。赤色に点灯している放送階のスピーカ回線は自動的に切り離され、その階への放送はできません。

⑱ 出火階表示灯

自火報（自動火災報知設備）から起動がかかると点灯し、出火階を表示します。

⑲ 自火報連動一斉モード表示灯

自火報（自動火災報知設備）等との連動一斉モードを設定したときに点灯します。

⑳ 発報連動停止表示灯

発報連動停止モードを設定したときに点灯します。発報連動停止にしたときは、感知器の起動による感知器発報放送の連動が停止します。

この表示灯が点灯しているときには、感知器が起動すると、本操作部から火災音信号が鳴動しますので、迅速な原因調査と適切な放送を行ってください。

ご注意 このモードの設定に関しては、所轄の消防署の認可を取得する必要がありますので、当社営業所までご相談ください。

㉑ グループ選択スイッチ (EP-059Rのみ)

業務放送時に、グループ指定した場所に放送するときに押します。再度押すと復旧します。

㉒ グループ作動表示灯 (EP-059Rのみ)

業務放送時に、点灯しているグループが放送中であることを示します。

㉔ スピーカ (EP-059R)/ブザー (EP-021R)

火災音と異常時の警告音を出力します。

㉖ LCD パネル (EP-059Rのみ)

非常放送時に必要な操作ガイド、業務放送時の状態、および各種の異常状態を文字で表示します。

㉗ CPU制御 入/切スイッチ

通常は、CPU制御「入」の位置にします。

CPU異常でCPU制御ができなくなったときにCPU制御「切」にすると、非常・業務兼用マイクで一斉放送ができます。

㉘ 自火報連動切換スイッチ

自火報連動モードと自火報連動一斉モードとの切り換えをする時に押します。押すごとに交互にモードが切り換わります。

㉙ 業務緊急放送表示灯 (EP-021Rのみ)

業務緊急放送時に点灯し、音量調節器の状態に関係なく放送することができます。

㉚ 電源表示灯 (EP-021Rのみ)

電源を投入したときに点灯します。

㉛ 他機作動中表示灯 (EP-021Rのみ)

業務放送時に本体や遠隔操作器などの機器が作動中に点灯します。

㉜ 本機作動中表示灯 (EP-021Rのみ)

業務放送時に本機が作動中に点灯します。

㉝ 増設ユニット異常表示灯 (EP-021Rのみ)

増設ユニットに異常が発生したときに点灯します。

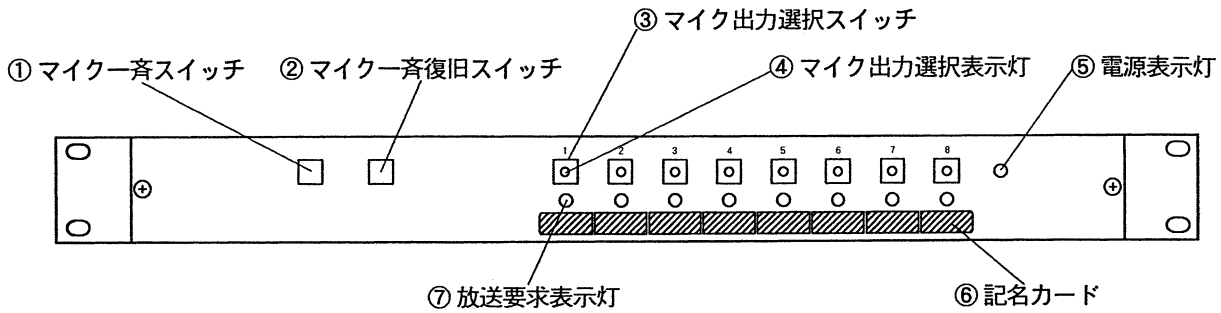
㉞ 通信異常表示灯 (EP-021Rのみ)

本体との通信回線に異常が発生したときに点灯します。

㉟ 蓄電池異常表示灯 (EP-021Rのみ)

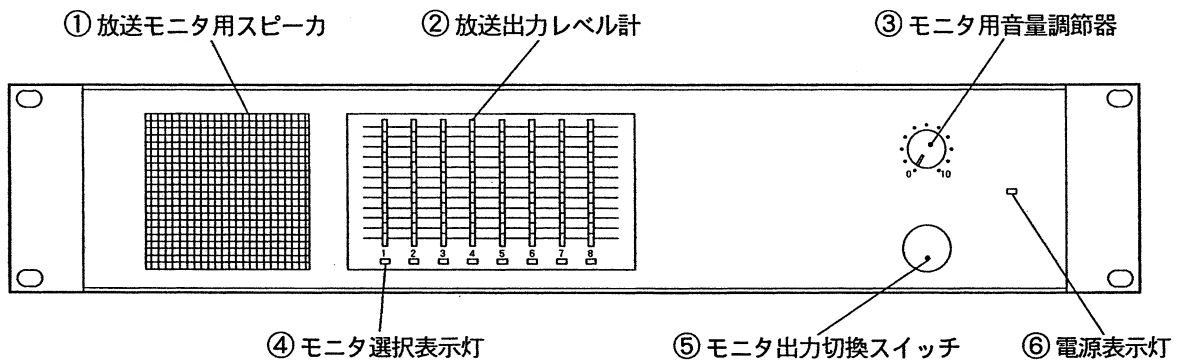
蓄電池に異常が発生したときに点灯します。

■ マイク出力選択パネル MS-011



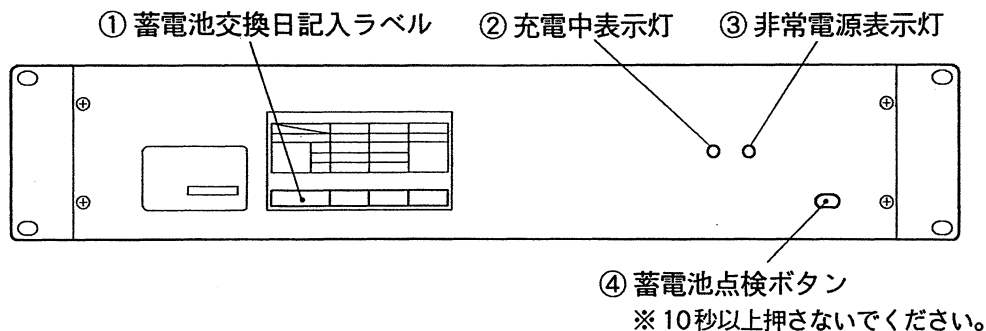
- ① マイク一斉スイッチ
放送要求表示灯が点灯しているすべての防火対象物(棟)にマイク放送をするときに押します。
- ② マイク一斉復旧スイッチ
放送要求表示灯が点灯しているすべての防火対象物(棟)へのマイク放送が終了後に押します。
- ③ マイク出力選択スイッチ
放送したい防火対象物(棟)を選択するときに押します。もう一度押すと切れます。放送要求表示灯が点灯した所の防火対象物に対応して自動的に選択します。
- ④ マイク出力選択表示灯
放送したい防火対象物(棟)が選択されると点灯します。放送要求表示灯が点灯した所の防火対象物に対応して自動的に点灯します。
- ⑤ 電源表示灯
電源を投入したときに点灯します。
- ⑥ 記名カード
各防火対象物(棟)の名称を記入します。
- ⑦ 放送要求表示灯
非常用集中遠隔操作器から放送階を選択したとき、または、非常起動信号が入ってきたときに対応する防火対象物(棟)の表示灯が点灯します。

■ モニタパネル MP-021



- ① 放送モニタ用スピーカ
モニタ選択表示灯が点灯している系統の放送内容を出力します。
- ② 放送出力レベル計
放送出力レベルを表示します。緑色の範囲で使用してください。
- ③ モニタ用音量調節器
放送モニタ用スピーカの音量を調節します。右へ回すほど音量が大きくなります。
- ④ モニタ選択表示灯
放送モニタ用スピーカにモニタ出力されている系統を表示します。
- ⑤ モニタ出力切換スイッチ
放送モニタ用スピーカにモニタ出力させる系統を切換えます。このスイッチを回転させると、順次に系統が繰り上がり(下がり)ます。
- ⑥ 電源表示灯
電源を投入したときに点灯します。

■ 遠隔操作器用非常電源パネル DS-029R



① 蓄電池交換日記入ラベル

蓄電池の使用開始日、交換日を記入します。

ご注意 蓄電池の寿命は約4年です。使用条件によって異なります。

非常時に機器を正常に動作させるために必ず4年以内に交換してください。

「ニカド電池のリサイクル」(P. 6)

「ニカド電池の交換について」(P. 33)

② 充電中表示灯

蓄電池が充電状態にあるときに点灯します。
蓄電池が接続されていないと点灯しません。

③ 非常電源表示灯

蓄電池の状態を以下の様に表示します。

点灯時：十分に充電されています。

点滅時：十分に充電されていません。

消灯時：充電されていません。

この表示灯は、点検ボタンを押したり、停電した場合、常用電源から非常電源に切り換わったときに働きます。

④ 蓄電池点検ボタン

蓄電池の状態を点検するときに押します。

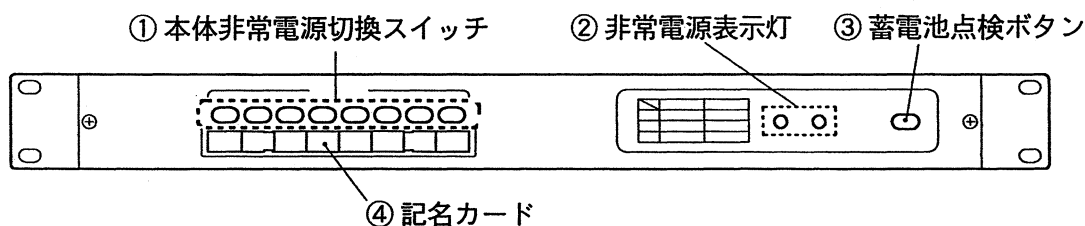
ご注意

- 点検は毎日実施してください。

- 点検ボタンは10秒以上押さないでください。

点検については日常点検の項(P. 28)をお読みください。

■ 遠隔操作器用非常電源監視パネル BM-011



① 本体非常電源切換スイッチ

点検時および非常時に監視する本体非常電源を切り換えるためのスイッチです。

② 非常電源表示灯

蓄電池の状態を以下の様に表示します。

点灯時：十分に充電されています。

点滅時：十分に充電されていません。

消灯時：充電されていません。

この表示灯は、点検ボタンを押したり停電した場合、常用電源から非常電源に切り換わったときに働きます。

③ 蓄電池点検ボタン

蓄電池の状態を点検する時に押します。

ご注意

- 点検は毎日実施してください。

- 点検ボタンは10秒以上押さないでください。

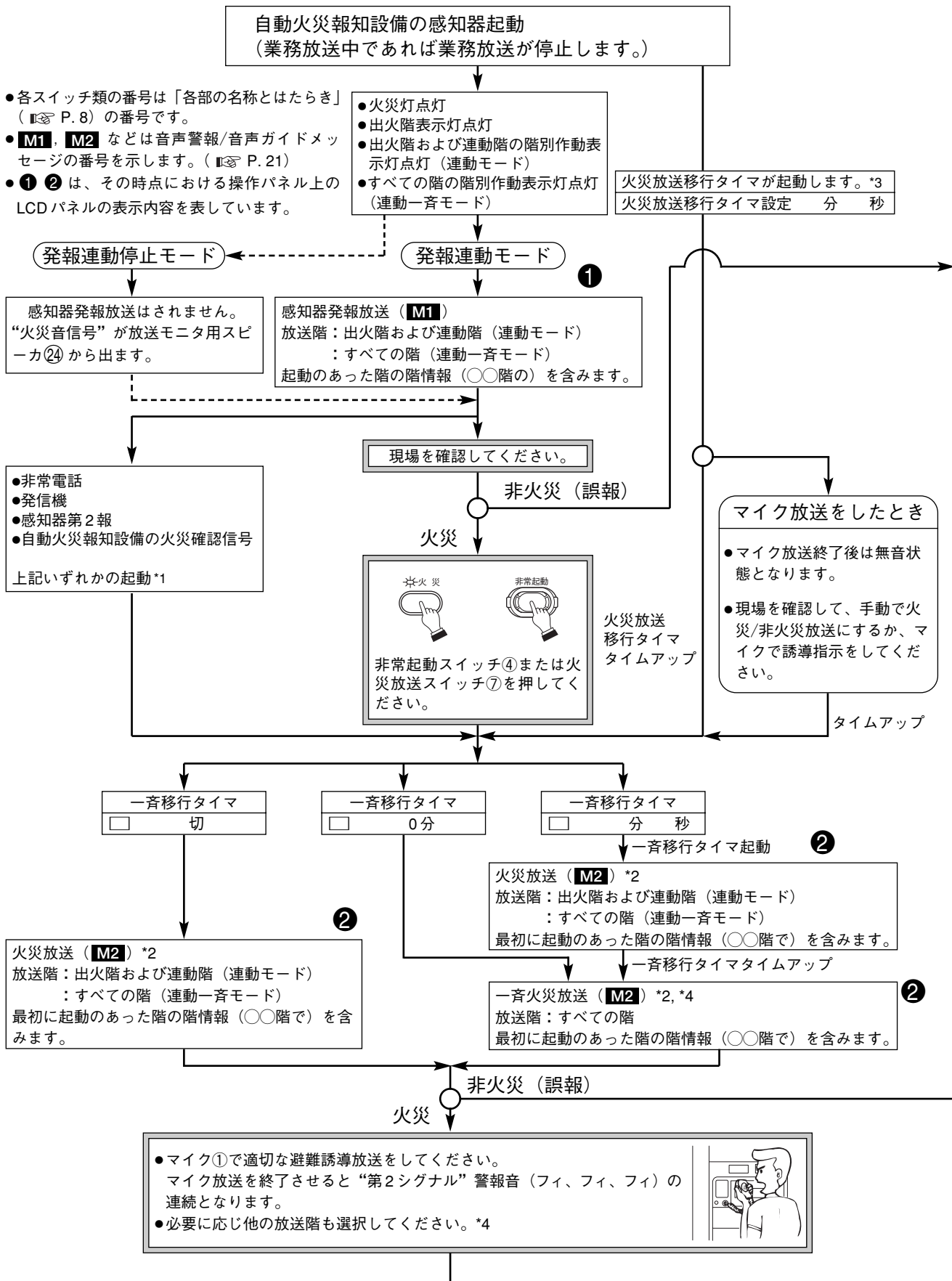
点検については日常点検の項(P. 28)をお読みください。

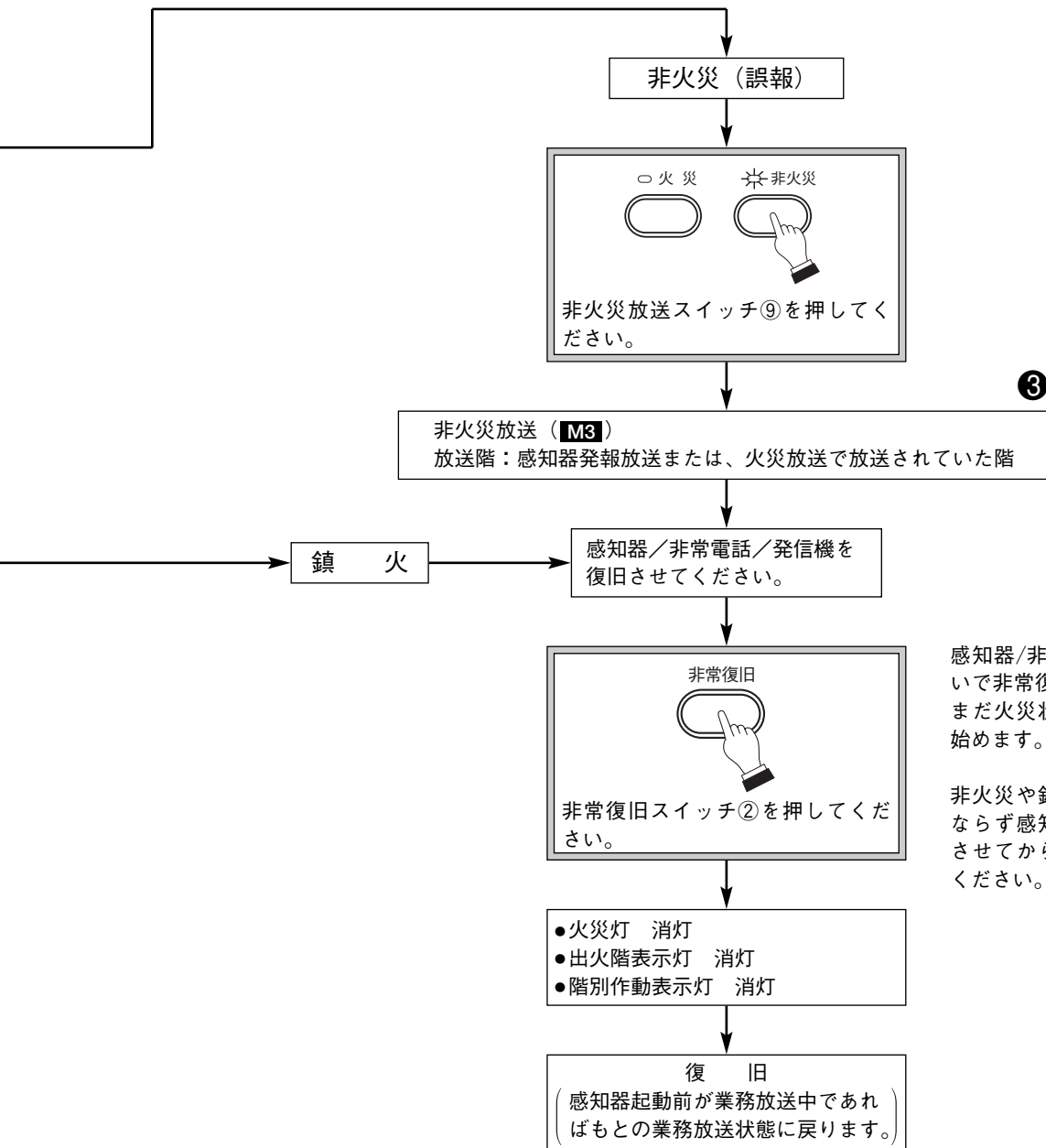
④ 記名カード

接続されている本体非常電源の設置場所等を記入します。
表のカバー(透明樹脂板)をはずすと、記名カードが取り出せます。

非常時の操作手順

■ 自火報感知器起動による非常放送





感知器/非常電話/発信機を復旧させないで非常復旧スイッチを押した場合は、まだ火災状態と判断して、非常放送を始めます。

非火災や鎮火が確認されたときは、かならず感知機/非常電話/発信機を復旧させてから非常復旧スイッチを押してください。

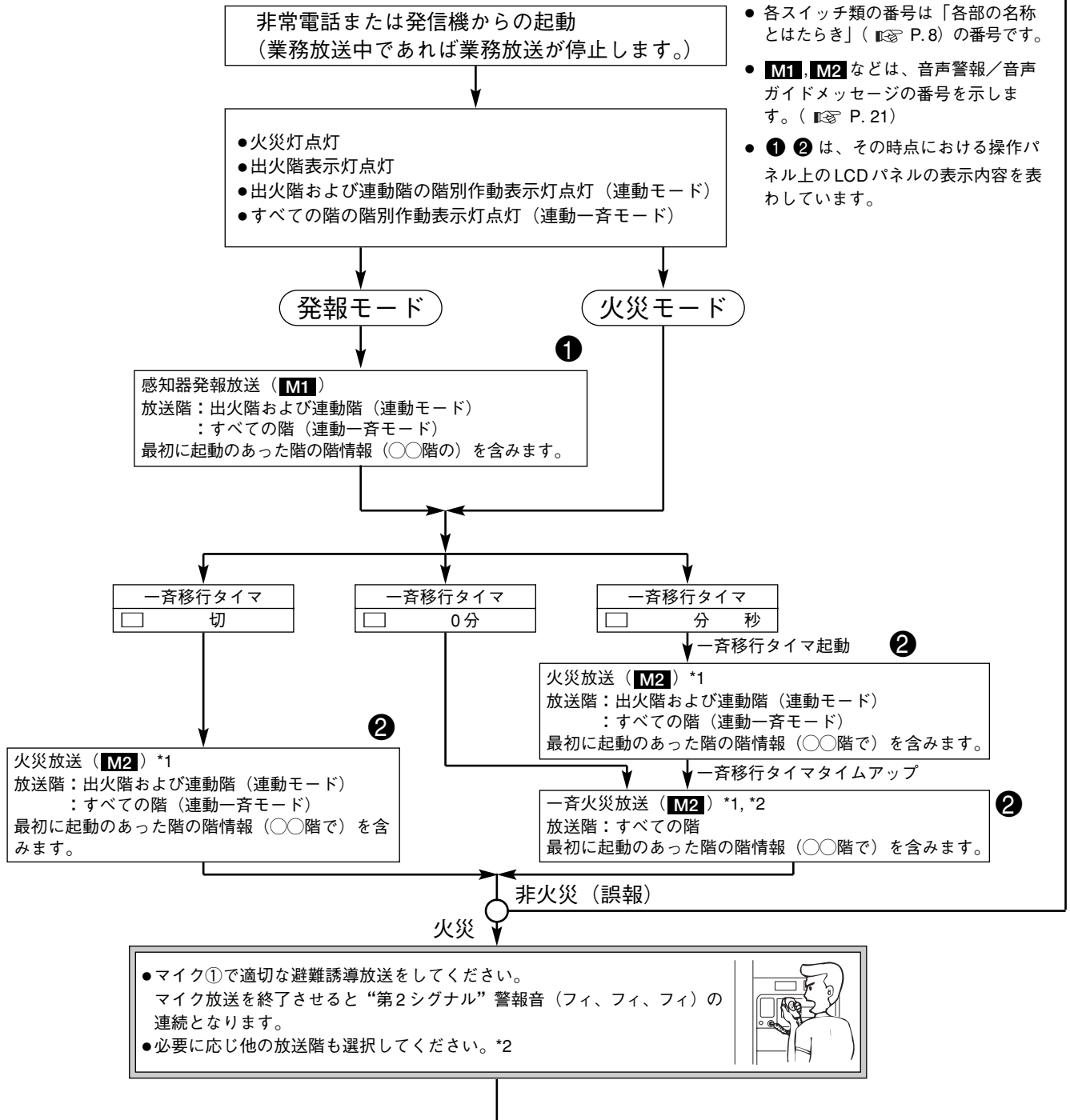
- *1 異なる階の感知器が同時に起動したとき、または発報放送中に別の階の感知器が起動したときは、発報放送のメッセージ終了後、すぐに火災放送になります。
- *2 感知器発報放送後、新たに別の階の感知器が起動したときでも、火災放送では最初に起動のあったときの階情報(〇〇階で)を含んだ音声メッセージだけが放送されます。
- *3 火災放送移行タイマ作動中に放送復旧スイッチ①を押して、放送が復旧したときも火災放送移行タイマは停止せず、作動を継続します。
- *4 一斉移行タイマがタイムアップ後は、放送復旧を含む放送階の変更はできません。一斉放送だけになります。

マイク放送は最優先なので、いつでも放送することができます。

操作中にCPU異常表示灯が点灯または点滅したら

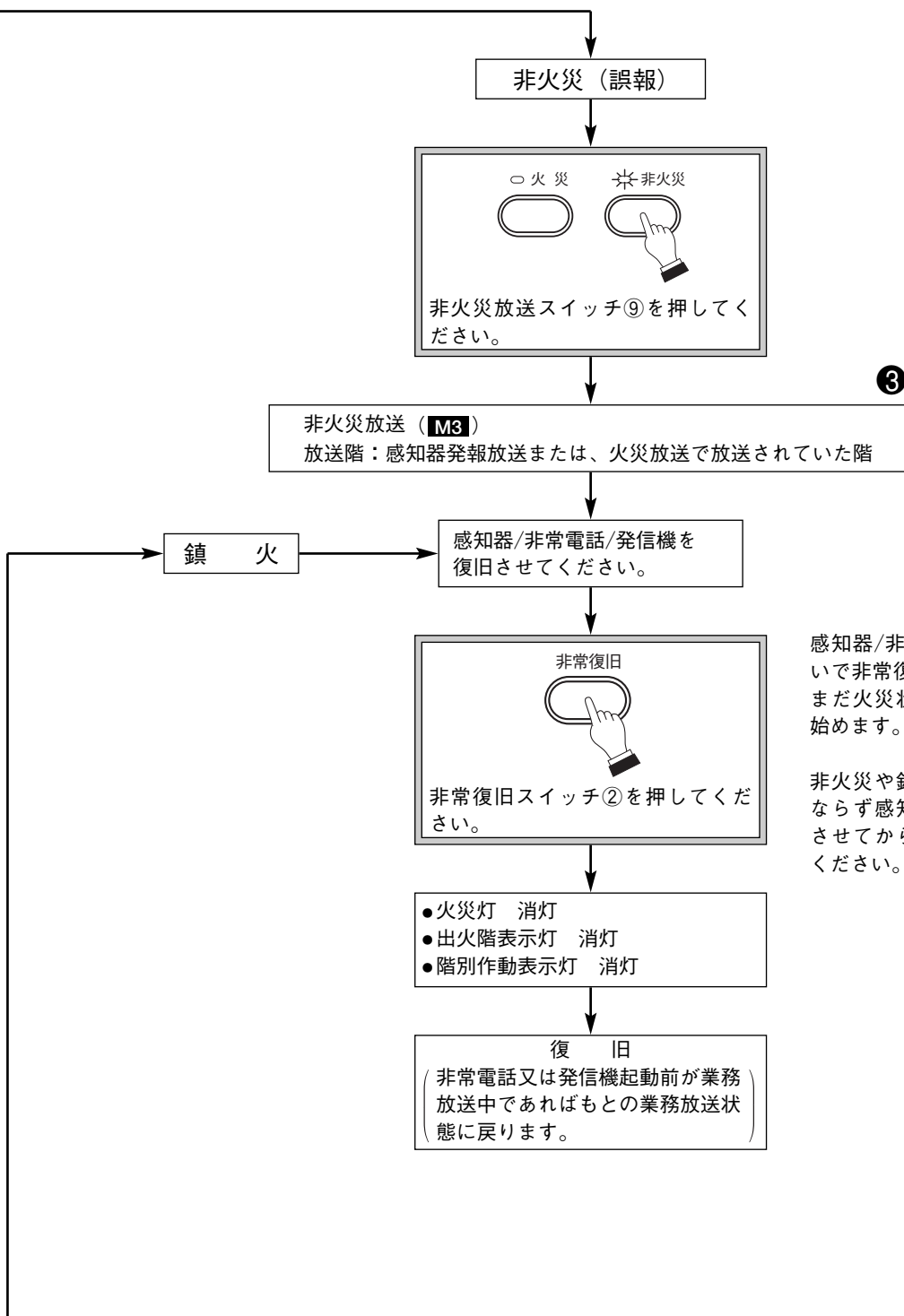
ドアを開けてコンピュータ制御入/切スイッチを「切」にしてください。マイクによる緊急一斉放送をすることができます。(P. 29)

非常電話/発信機起動による非常放送



*1 感知器発報放送後、新たに別の階の非常電話/発信機が起動したときでも、火災放送では最初に起動のあったときの階情報 (〇〇階で) を含んだ音声メッセージだけが放送されます。

*2 一斉移行タイムがタイムアップ後は、放送復旧を含む放送階の変更はできません。一斉放送だけになります。



感知器/非常電話/発信機を復旧させないで非常復旧スイッチを押した場合は、まだ火災状態と判断して、非常放送を始めます。

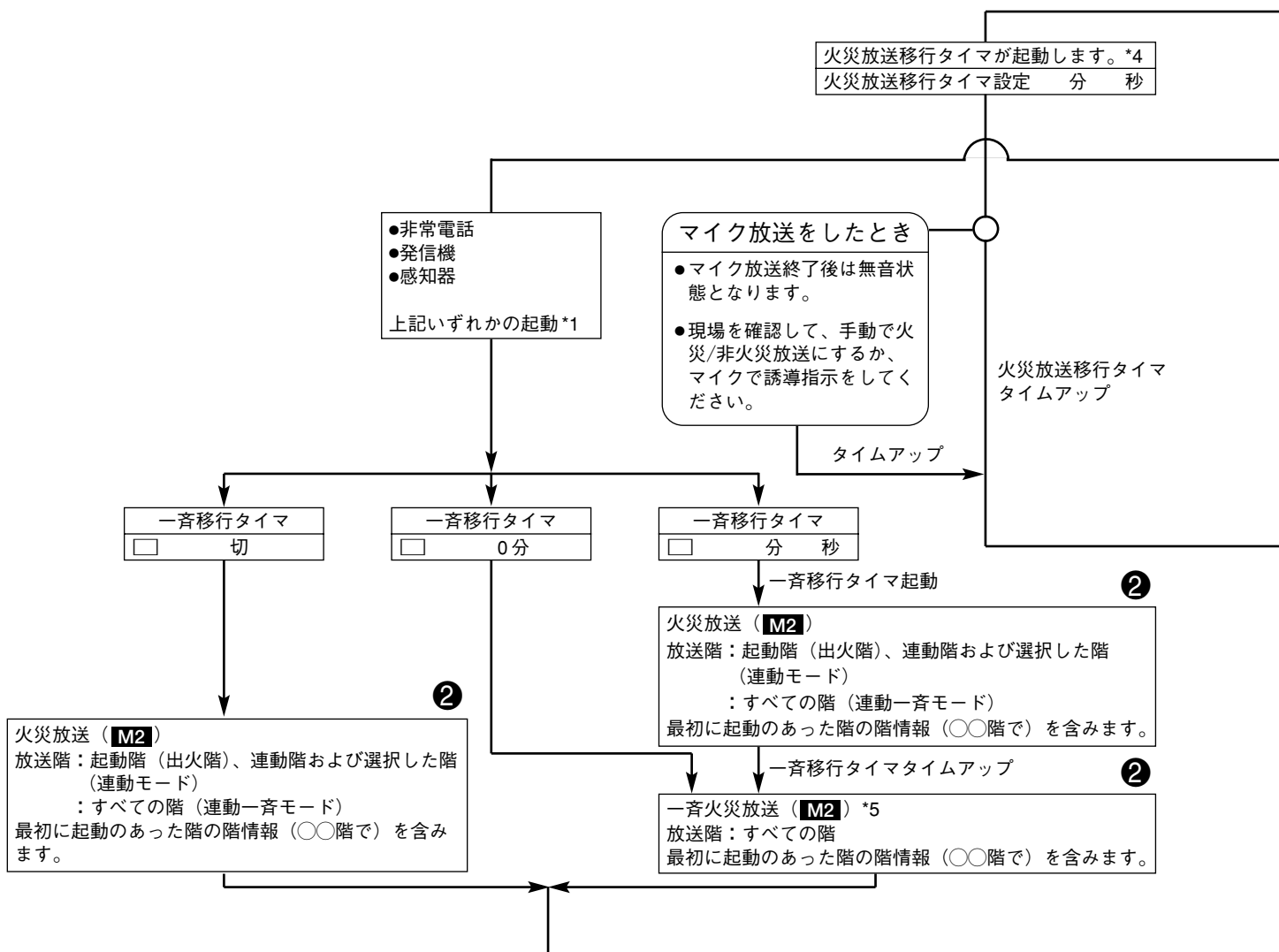
非火災や鎮火が確認されたときは、かならず感知器/非常電話/発信機を復旧させてから非常復旧スイッチを押してください。

マイク放送は最優先なので、いつでも放送することができます。

操作中にCPU異常表示灯が点灯または点滅したら
 ドアを開けてコンピュータ制御入/切スイッチを「切」にしてください。マイクによる緊急一斉放送をすることができます。(P. 29)

■ 手動による非常放送

- 各スイッチ類の番号は「各部の名称とはたらき」(P. 8) の番号です。
- **M1**, **M2** などは音声メッセージの番号を示します。(P. 21)
- ① ② は、その時点における操作パネル上のLCDパネルの表示内容を表わしています。

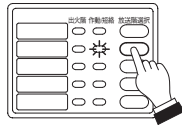


手動起動：火災の情報を入力したとき



非常起動

非常起動スイッチ④を押してください。
(業務放送中であれば業務放送が停止します。)



必要と思われる放送階選択スイッチ⑮または
一斉放送スイッチ⑩を押してください。

発報モード

火災モード

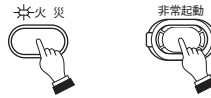
感知器発報放送 (M1) ①
放送階：選択した階*2
階情報 (〇〇階の) を含みません。

現場を確認してください。

非火災 (誤報)

火災

②
次ページへ



非常起動スイッチ④または火災放送スイッチ⑦を押してください。

一斉移行タイマ
 切

一斉移行タイマ
 0分

一斉移行タイマ
 分 秒

一斉移行タイマ起動

火災放送 (M2) *3 ②
放送階：選択した階
階情報 (〇〇階で) を含みません。

一斉移行タイマタイムアップ

一斉火災放送 (M2) *3, *5 ②
放送階：すべての階
階情報 (〇〇階で) を含みません。

火災放送 (M2) *3 ②
放送階：選択した階
階情報 (〇〇階で) を含みません。

非火災 (誤報)

火災

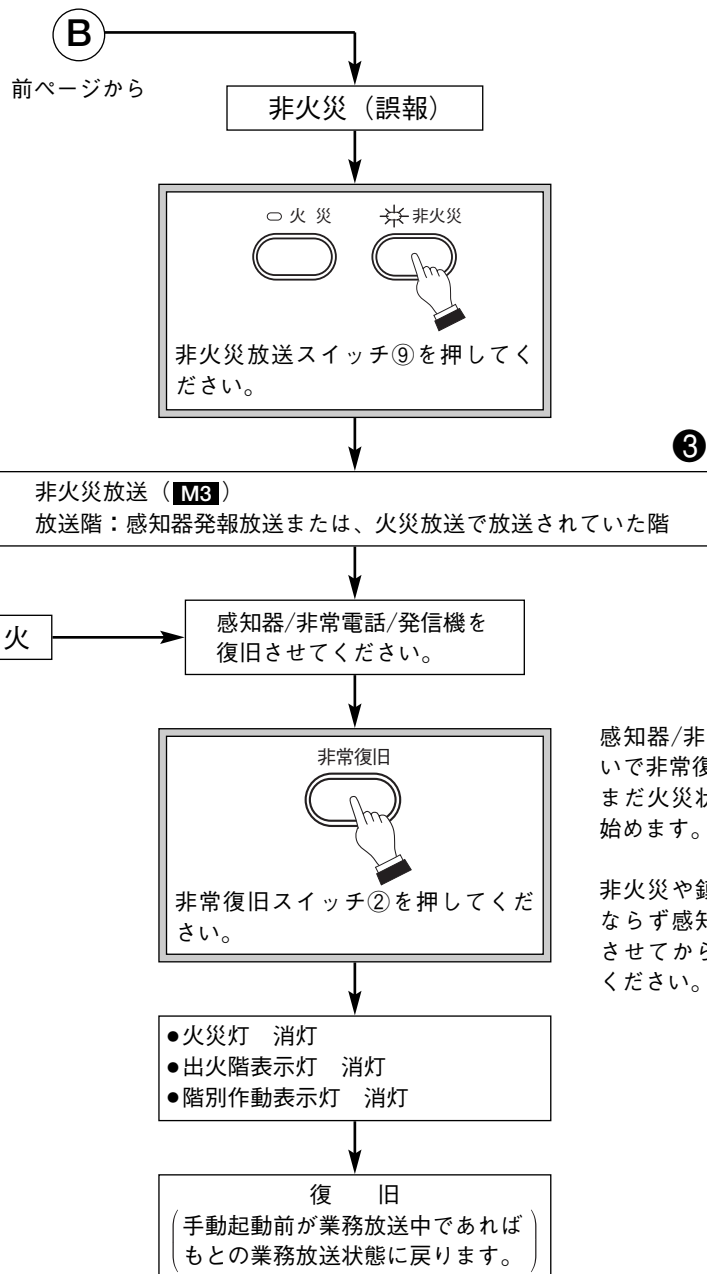
②
次ページへ

- マイク①で適切な避難誘導放送をしてください。
マイク放送を終了させると“第2シグナル”警報音 (フィ、フィ、フィ) の連続となります。
- 必要に応じ他の放送階も選択してください。*5



①

次ページへ



感知器/非常電話/発信機を復旧させないで非常復旧スイッチを押した場合は、まだ火災状態と判断して、非常放送を始めます。

非火災や鎮火が確認されたときは、かならず感知器/非常電話/発信機を復旧させてから非常復旧スイッチを押してください。

- *1 発報放送中に起動したときは、メッセージ終了後に火災放送になります。
- *2 放送階を手動で選択した時、直上階などへは放送されません。
- *3 手動起動による感知器発報放送後、新たに感知器/非常電話/発信機が起動したときは、火災放送では階情報（〇〇階で）を含んだ音声メッセージが放送されます。
- *4 火災放送移行タイマ作動中に放送復旧スイッチ①を押して、放送が復旧したときも火災放送移行タイマは停止せず、作動を続けます。
- *5 一斉移行タイマがタイムアップ後は、放送復旧を含む放送階の変更はできません。一斉放送だけになります。

マイク放送は最優先なので、いつでも放送することができます。

操作中にCPU異常表示灯が点灯または点滅したら

ドアを開けてコンピュータ制御入/切スイッチを「切」にしてください。マイクによる緊急一斉放送をすることができます。（ P. 29）

● 音声警報メッセージ（以下のメッセージは、放送階のスピーカから放送されます。）

| | | |
|-----------|---------|---|
| M1 | 感知器発報放送 | 第1シグナル(パポパポパポ) + 「ただいま〇〇階の火災感知器が作動しました。確認しておりますので、次の放送にご注意ください。(女声)」 * 以上の内容を2回くり返します。 |
| M2 | 火災放送 | 第1シグナル(パポパポパポ) + 「火事です、火事です、〇〇階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。(男声)」 + 第1シグナル(パポパポパポ) + 「火事です、火事です……(男声)」 + 第2シグナル(フィ、フィ、フィ3回) * 以上内容を継続してくり返します。マイク放送終了後は第2シグナルのみのくり返しとなります。 |
| M3 | 非火災報放送 | 第1シグナル(パポパポパポ) + 「さきほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。(女声)」 * 以上の内容を2回くり返します。 |

※ 発報/火災放送の階情報

1. 手動起動による非常放送の場合は「階情報」(〇〇階の、〇〇階で) が含まれません。
2. 感知器発報放送後、新たに別の階の感知器が起動したときでも、火災放送では最初に起動のあったときの階情報(〇〇階で)を含んだ音声メッセージだけが放送されます。

※ 音声警報メッセージが二カ国語(日本語+英語)に設定されている場合は、日本語に続いて英語のメッセージが放送されます。

| | |
|---------|---|
| 感知器発報放送 | Attention please. The fire alarm (on 〇〇 floor) is indicating a fire. We're now investigating the cause. Please wait for a further information. |
| 火災放送 | There is a fire (on 〇〇 floor). Please evacuate as quickly as possible. |
| 非火災放送 | Attention please. A few minutes ago, we announced there may be a fire. However, this was a false alarm. Once again, there is no fire. |

● 非常業務兼用遠隔操作パネル EP-059R の LCD (液晶) パネルの表示

| | | |
|--|--|--|
| ① | ② | ③ |
| ◎発報放送 火災 ⇒火災放送スイッチ 非火災 ⇒非火災放送スイッチ | ◎火災放送 マイク放送 ⇒非常マイク 非火災 ⇒非火災放送スイッチ | ◎非火災放送 マイク放送 ⇒非常マイク 火災 ⇒火災放送スイッチ 再放送 ⇒非火災放送スイッチ |

LCDパネルは、非常起動がかかった防火対象物(棟)の状態(発報放送/火災放送/非火災報放送)を表示します。EP-021Rに対応する防火対象物(棟)から非常起動がかけられても、その放送状態は、EP-059RのLCDパネルに表示します。

ただし、複数の防火対象物(棟)から非常起動がかけられたときは、各防火対象物(棟)の放送状態が火災放送>発報放送>非火災報放送の順に優先して表示します。

例:A棟で発報放送、B棟で火災放送、C棟で非火災報放送のとき、⇒LCDパネルに“火災放送”を表示します。

各防火対象物(棟)ごとの放送状態の確認は、対応する操作パネル(EP-059RまたはEP-021R)の音声警報の各表示灯(発報/火災/非火災)の点滅または点灯時に確認してください。また、これらの非常時の表示は、業務放送時の表示よりも優先します。

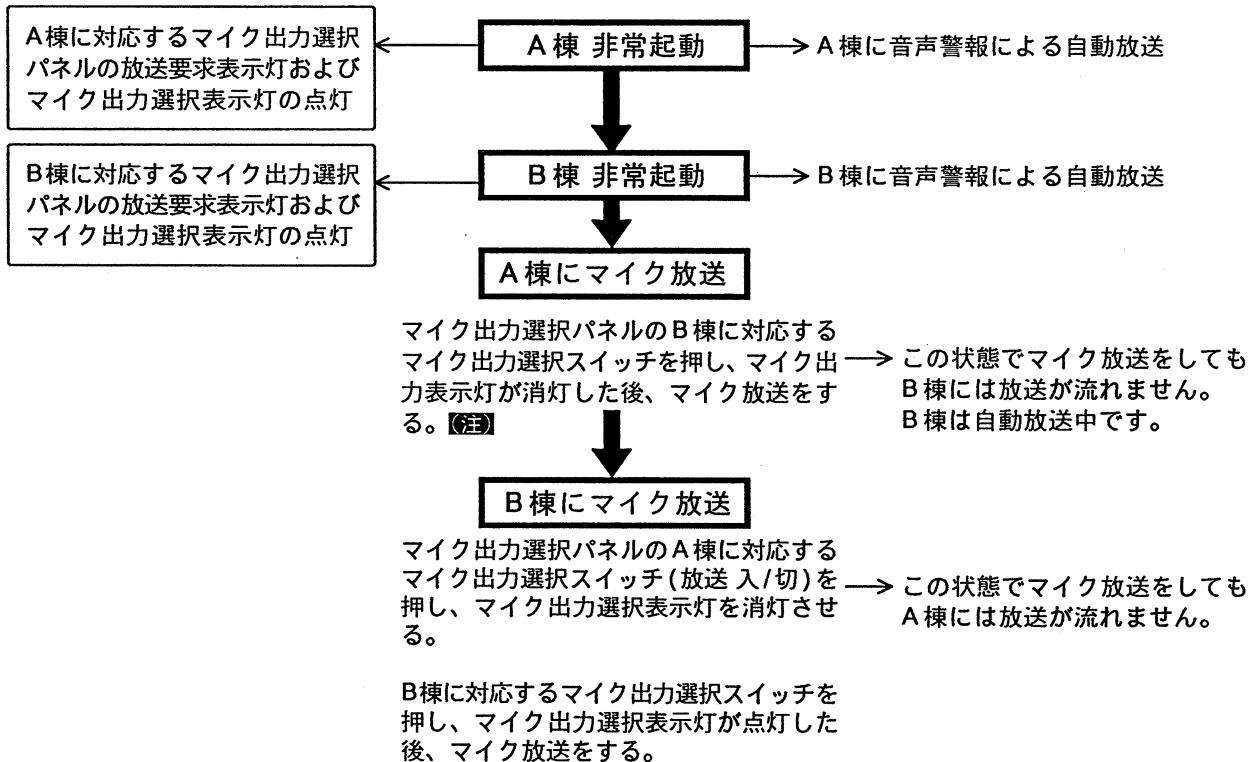
◎ 非常時のマイク放送

非常時にマイクで、複数の防火対象物(棟)に避難誘導放送を防火対象物(棟)ごとに異なった内容でマイク放送を行うときは、マイク出力選択パネルの操作が必要です。

マイク出力選択パネルのマイク出力選択スイッチ(放送入/切)を押します。マイク出力選択表示灯が消灯し、マイク放送を中断できます。再度、マイク出力選択スイッチを押して、マイク出力選択表示灯を点灯させるとマイク放送ができます。

操作手順例

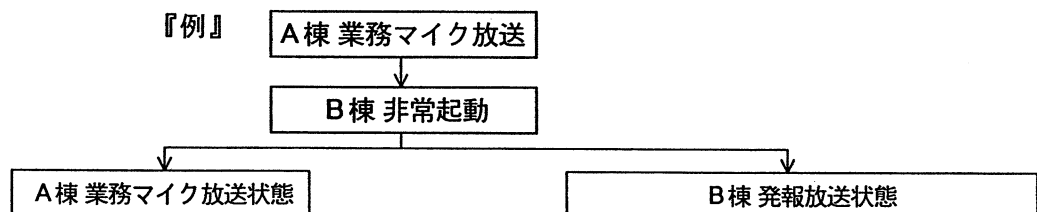
A棟とB棟で非常起動がかかり、別々の内容のマイク放送を行うとき



【注】 マイク出力選択表示灯が消灯する前にマイク放送をする(マイクのトークスイッチを押す)とA棟とB棟の両方へのマイク放送中の状態となります。

◎ マイクで業務放送時に非常起動をかけるとき

1つの防火対象物(棟)にマイクで業務放送中に他の対象物で非常起動がかかったときは、以下のような状態となります。



A棟へのマイク放送を中止したいときは、A棟に対応する操作パネルの放送復旧スイッチを押すか(業務放送を終了する)、またはA棟に対応するマイク出力選択パネルのマイク出力選択スイッチ(放送入/切)を押し、マイク出力選択表示灯を消灯(業務放送状態のままでマイク放送を中断する)してください。

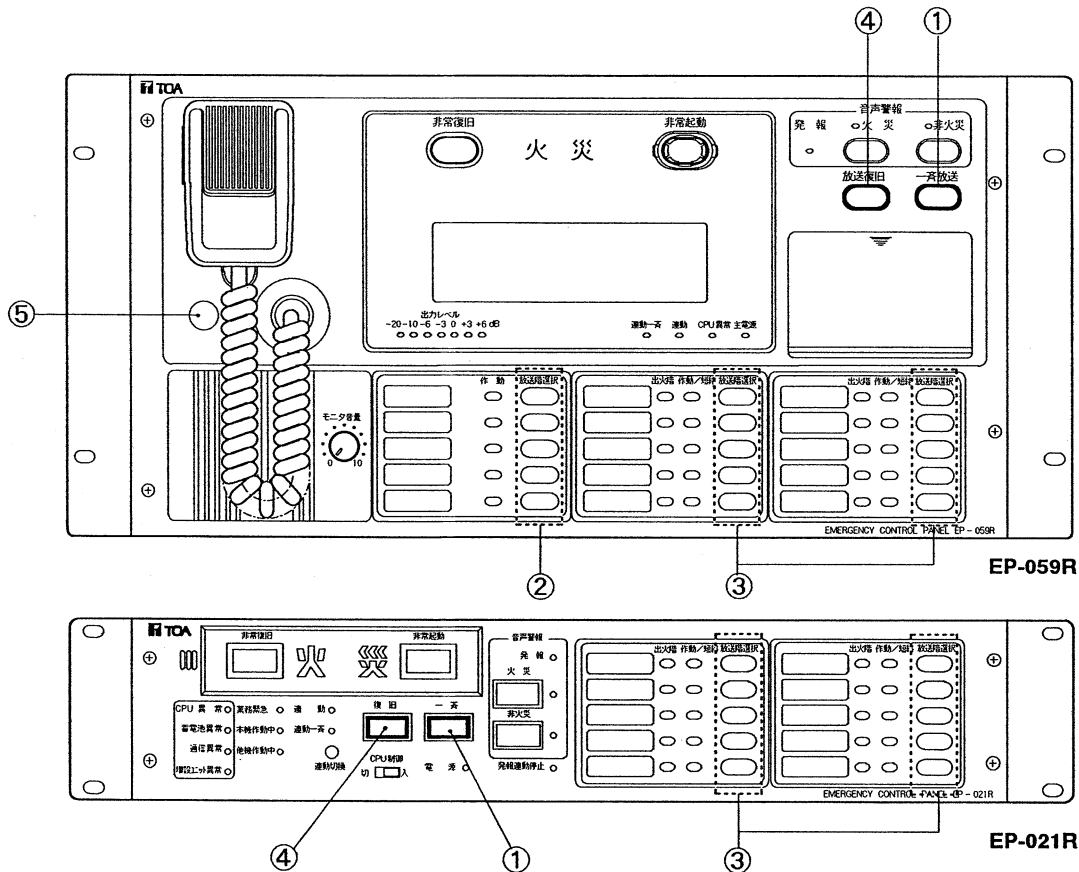
B棟へ非常マイク放送を行なうときには、一度マイクスイッチを離し、再度マイクスイッチを押して放送してください。

業務放送のしかた

■ マイクロホンによる案内放送

1. 放送場所を選択する。

- 一斉放送をするときは、一斉放送スイッチ①を押します。
- グループ放送をするときは、グループ選択スイッチ②を押します。
- 個別放送をするときは、放送階選択スイッチ③を押します。



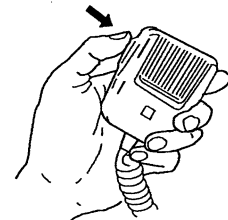
ご注意

本体ラックのプリアンプパネルの電源スイッチを「ON」にしていないうちは、電源「ON」時のノイズ発生防止のために、スピーカ回線は約1秒遅れて接続されます。

2. マイクスイッチを押して放送する。

EP-059Rにチャイムスイッチが取付けてあるときは、放送の前後にチャイムスイッチ⑤を押してチャイムを鳴らし、効果的な放送ができます。

ただし、EP-021Rに対応する棟には業務放送時のチャイム放送ができません。



3. 放送場所の解除

- 放送復旧スイッチ④を押し、放送場所を解除します。
- グループ放送や個別放送のときは、それぞれの選択スイッチを再度押すことによって、放送場所を解除することができます。

■ 業務グループ放送

グループ放送は、異なる階でも必要な場所をひとまとめにして、同一放送をすることができます。例えば、お客様、従業員など系統別にそれぞれのグループ選択スイッチに記憶しておく、ワンタッチで必要な場所へ放送ができます。記憶のしかたは、EP-0510(本体ラック)付属の「設置要領書き込み編」をご覧ください。

本放送設備の業務グループ放送は次のとおりです。

EP-021Rは、非常業務兼用遠隔操作パネルEP-059Rのグループ選択スイッチに対応するグループ選択スイッチは設けられていません。そのため、EP-021Rからの業務放送は個別の放送階選択スイッチがグループスイッチとして設定されているときを除き、放送階選択スイッチで個別放送だけができます。

1. 本体グループ放送

本体のグループ選択スイッチを使用します。グループ専用スイッチは5局あります。不足するときは、個別の放送階選択スイッチもグループスイッチとして設定することができます。

放送のしかた

- グループ放送をするとき グループ選択スイッチを押します。
- グループ放送を終わるとき 同じグループ放送スイッチを再度押すか、または、放送復旧スイッチを押します。
- 2つのグループに同一放送をしたいとき 放送したい場所のグループ選択スイッチを2つ押します。
- グループ放送に階別放送を追加したいとき グループ選択スイッチを押した後、放送を追加したい階の階別選択スイッチを押します。

2. 本体緊急グループ放送

緊急グループの書き込みを行なった本体のグループ選択スイッチを使用します。グループ作動表示灯の点灯とともに業務緊急表示がLCDパネルに出ます。この放送では、スピーカの音量調節器が絞ってあっても、その最大音量で放送ができ、緊急連絡放送に用いられます。

操作方法は、「1. 本体グループ放送」と同じです。

3. 非常業務兼用遠隔操作器（非常リモコン）グループ放送

非常リモコンからのグループ放送です。非常リモコンのグループ放送スイッチは、本体と同じ場所になっています。操作方法も同じです。

4. 非常リモコン緊急グループ放送

非常リモコンからの緊急グループ放送です。非常リモコンのグループ放送スイッチは、本体と同じ場所になっています。操作方法も同じです。

5. 業務リモコングループ放送

業務リモコンからのグループ放送です。本体とは別のグループを設定することができます。操作方法は業務リモコンの取扱説明書を参照してください。

6. 業務リモコン緊急グループ放送

業務リモコンからの緊急グループ放送です。本体とは別の緊急グループを設定することができます。

7. タイマ(緊急)グループ放送

メロディクスを接続してタイマから起動させると、特定の場所にメロディクスの放送をすることができます。また、緊急グループに設定することもできます。

8. 音声ファイル(緊急)グループ放送

音声ファイルを接続してタイマから起動させると、特定の場所に音声ファイルの放送をすることができます。また、緊急グループに設定することもできます。

■ 業務一斉放送について

業務一斉放送は、設置して最初に電源を投入し、初期化した状態では、“通常一斉放送”に設定されています。一斉放送で、スピーカの音量調節器を絞っていても放送することができる“業務緊急一斉放送”をしたときは、「書き込み」によって変更することができます。

詳しくは、EP-0510(本体ラック)付属の「設置要領書き込み編」をご覧ください。

■ 本体 BGM 放送について

ビジー制御出力端子を持たない演奏機器からでも BGM 放送ができる本体 BGM 放送機能を内蔵しています。非常業務兼用操作パネル EP-0510 での書き込みで、グループ選択スイッチまたは放送階選択スイッチの用途を「BGM」に設定します。

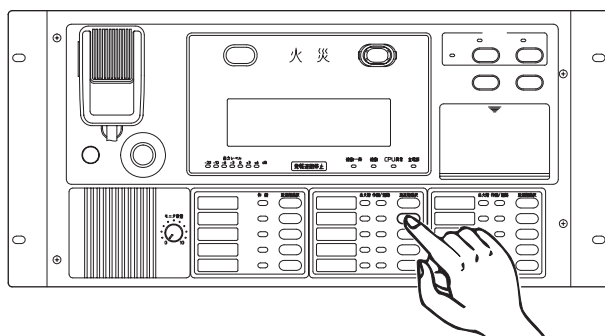
EP-0510 および非常リモコンで、「BGM」に設定されたグループ選択スイッチまたは放送階選択スイッチを押すことにより本体 BGM 放送ができます。

設定のしかたは、別冊「設置要領（書き込み編）」をご覧ください。

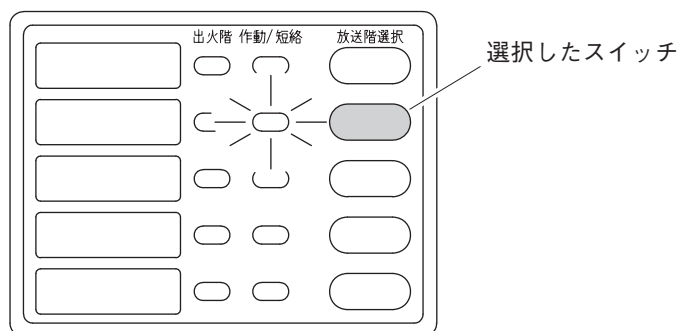
ご注意 接続する本体ラックによっては「本体 BGM 放送」ができないものがあります。詳しくは、本体ラック EP-0510 付属の取扱説明書をご覧ください。

● 本体 BGM 放送のしかた

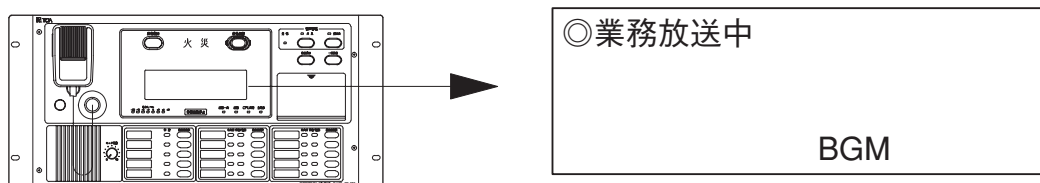
1. 「BGM」に設定されている本体のグループ選択スイッチまたは放送階選択スイッチを押します。



2. 押したスイッチの作動表示灯が点灯します。



3. EP-0510 の LCD パネルに「業務放送中 BGM」の表示がでます。

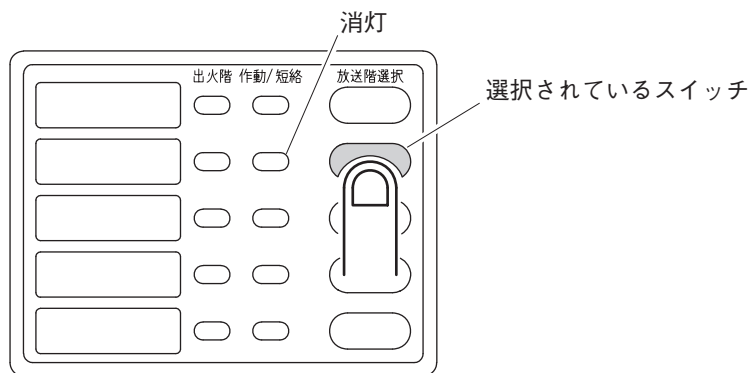


4. BGM 音源機器から本体 BGM 放送ができます。

ご注意

- 本体 BGM 放送は EP-0510 での書き込みによって、放送の優先レベルを設定することができます。別冊「設置要領（書き込み編）」をご覧ください。
- 本体 BGM 放送よりも優先レベルの高い放送をしているときは、「BGM」に設定されたグループ選択スイッチまたは放送階選択スイッチを押しても BGM 放送はできません。

5. 本体BGM放送を終了するときには、選択されているグループ選択スイッチまたは放送階選択スイッチを押して、作動表示灯が消灯することを確認します。(LCD上の表示も消えます。)



ご注意 本体の放送復旧スイッチを押しても、本体BGM放送は中断せず継続します。

● 非常業務兼用遠隔操作器（非常リモコン）からの本体BGM放送のしかた

非常業務兼用遠隔操作器（非常リモコン）からも本体BGM放送ができます。
 非常業務兼用操作パネルEP-0510での書き込みで、「BGM」に設定されたグループ選択スイッチまたは放送階選択スイッチを押して、本体BGM放送をします。
 操作方法は「本体BGM放送のしかた」と同じです。

● 本体BGM放送を行うことができる機器

EP-0510の内部スイッチの切り換えにより、本体または非常リモコンのどちらから本体BGM放送を行うかを設定することができます。
 出荷状態では本体と非常リモコンの両方から本体BGM放送ができます。
 設定できる内容と設定のしかたは、別冊「設置要領（工事・基本編）」の「非常業務兼用操作パネルEP-0510の設定」をご覧ください。

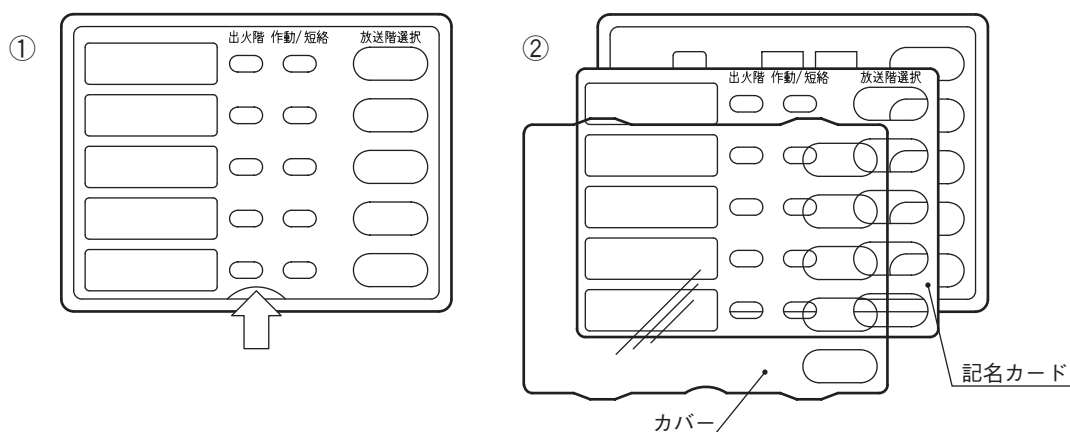
ご注意 本体BGM放送機器として設定されていないときは、「BGM」で設定されているグループ選択スイッチまたは放送階選択スイッチを押しても選択できません。

■ 記名カードの使いかた

記名カードは、放送階選択スイッチおよびグループ選択スイッチの名称を記入します。

● カバーの外しかた

下図のようにカバーの溝を先の細いもので上に押し上げ、カバーを手前に引き出します。
 記入後はカバーを元の位置にはめ込みます。

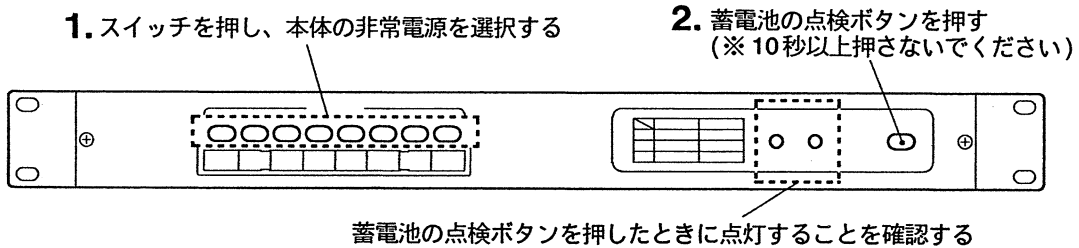


日常点検

■ 手動点検

- 万一の時に機器が正常に動作するように、日常点検を必ず実施してください。
- 日常点検は、機器の動作の一部だけを点検するものです。必ず定期点検も実施するようにしてください。

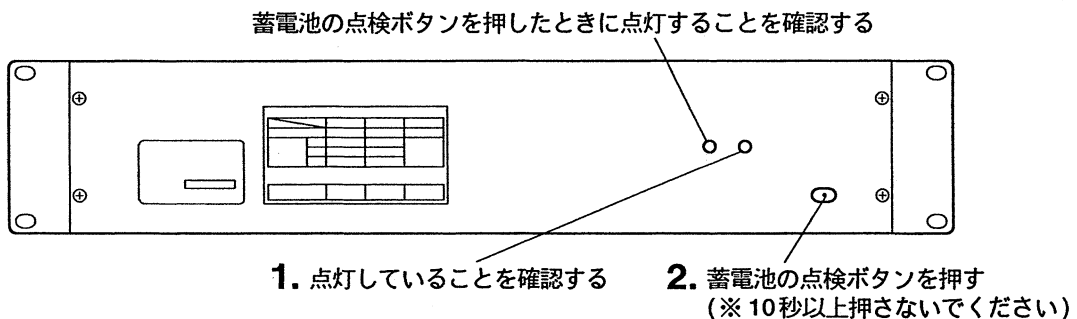
● BM-011 による本体非常電源電圧の確認



1. 本体の非常電源切換スイッチを押し、点検を行なう本体の非常電源を選択します。
2. 蓄電池の点検ボタンを押して、非常電源表示灯が点灯することを確認します。

本体の非常電源内の蓄電池が接続されていないと非常電源表示灯は点灯しません。蓄電池が1台だけの接続のとき、非常電源表示灯の点灯も1つだけとなります。点検作業は、接続されているすべての本体の非常電源について実施してください。

● DS-029R による電源電圧の確認



1. 充電中表示灯が点灯していることを確認します。
蓄電池が接続されていないとき、充電中表示灯は点灯しません。
2. 蓄電池点検ボタンを押し、非常電源表示灯が点灯することを確認します。

※ 蓄電池が接続されていないとき、非常電源表示灯は点灯しません。

注意 蓄電池の寿命は約4年です。使用条件によって異なりますが、最長でも4年以内に交換することをおすすめします。(P. 33「ニカド電池の交換について」)
以上の点検で異常が見つかったとき、設置後または蓄電池交換後4年以上経過しているときは、すみやかに販売店または保守契約店へ連絡してください。



ニカド電池のリサイクルにご協力ください

使用済みのニカド電池は、捨てないで、お買い上げ店または弊社営業所へ返却してください。

■ 自動点検

本機はコンピュータによる自動点検の機能を備えています。

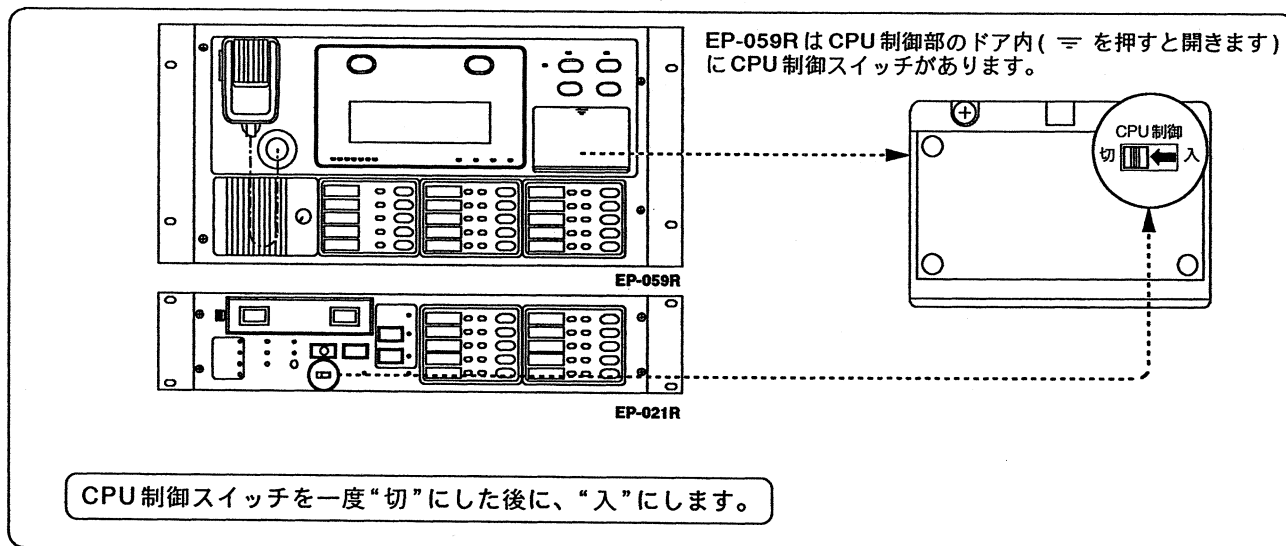
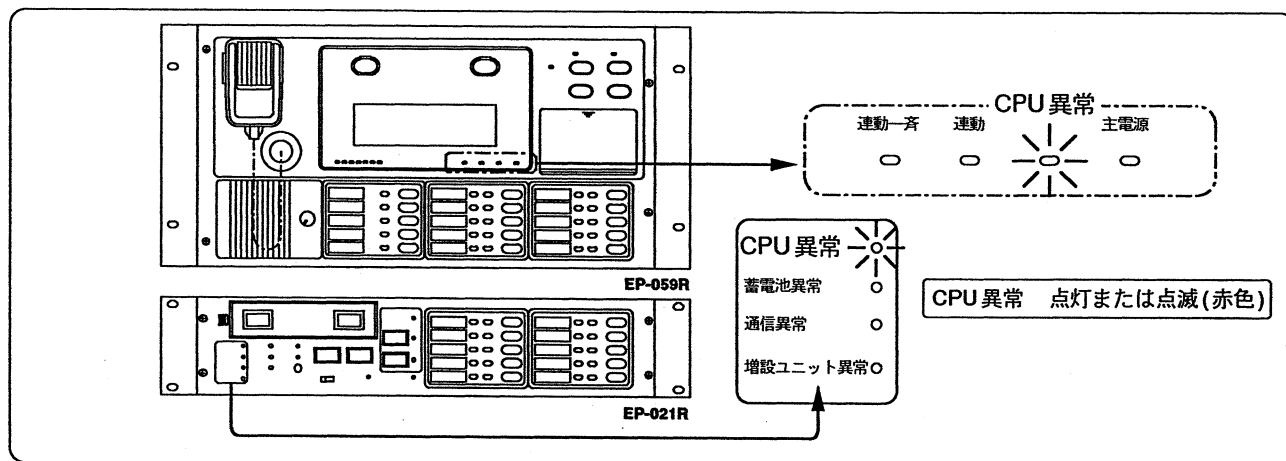
自動点検は、蓄電池の点検を24時間ごとに、その他の点検項目は常時行われています。

異常があったときは、操作パネルのLCDパネル（EP-059Rのみ）、または異常表示灯にその異常状態を表示します。

以下に、異常発生時の表示内容とその時の処置について説明します。

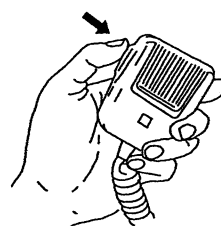
● CPU異常：コンピュータに異常があります。

（異常の表示と処置のしかた）



CPU異常表示灯が再点灯/点滅するようなときは、販売店または保守契約店へただちにご連絡ください。

*とりあえずCPU制御スイッチを“切”にしておきます。この状態では、非常・業務兼用マイクによる一斉放送だけができます。

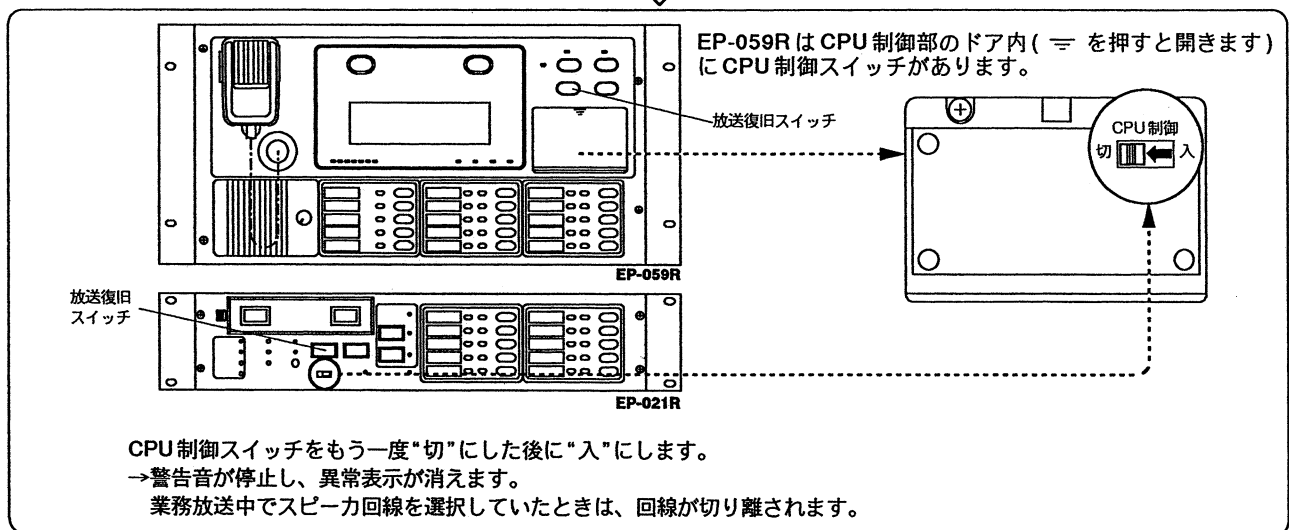
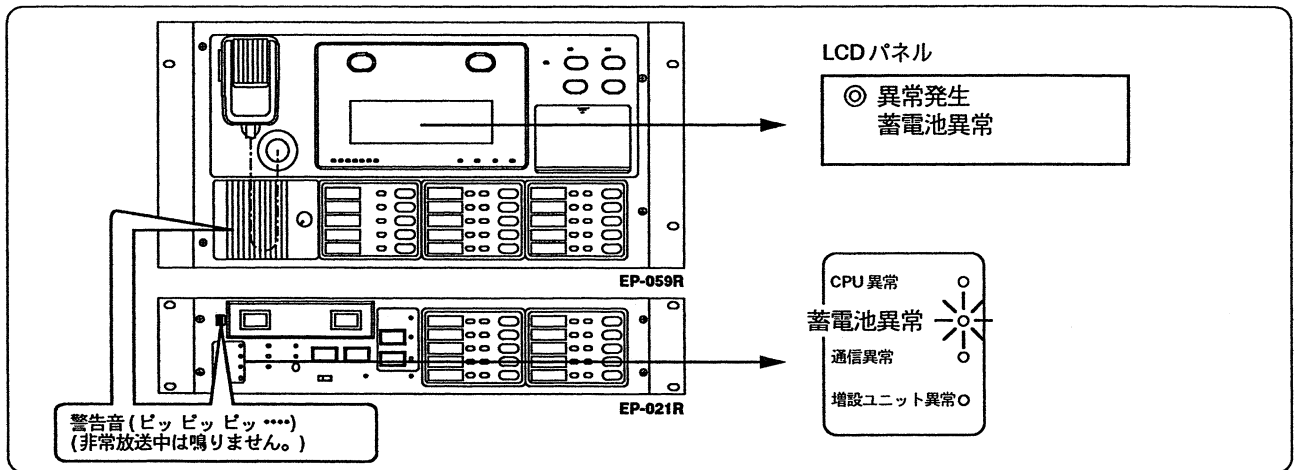


マイクスイッチを押して放送します。

● 蓄電池異常：本体ラック（DS-029）の蓄電池に異常があります。

* 本体ラックの蓄電池の自動点検は24時間ごとに行なわれます。また、手動点検時に異常が発見されれば、異常表示と警告音(ピッ ピッ ピッ ………)で知らせます。

(異常の表示と処置のしかた)



本体ラックの非常電源パネルDS-029または遠隔操作器用 非常電源監視パネルBM-011で手動点検を実施します。EP-0510(本体ラック)付属の「取扱説明書」と本取扱説明書(P. 28)をご覧ください。

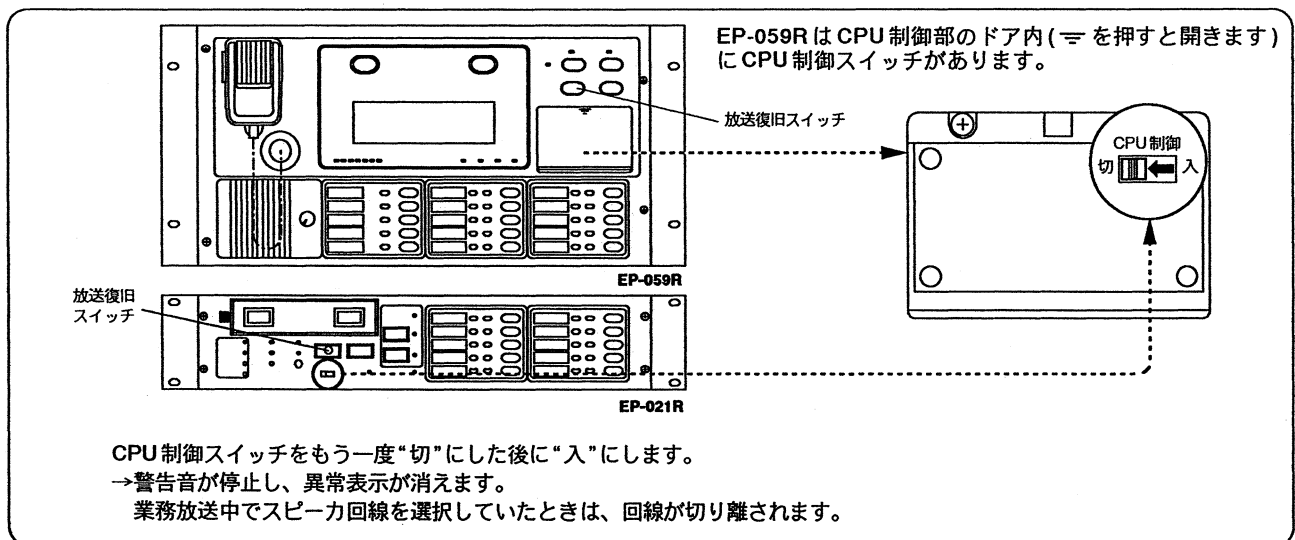
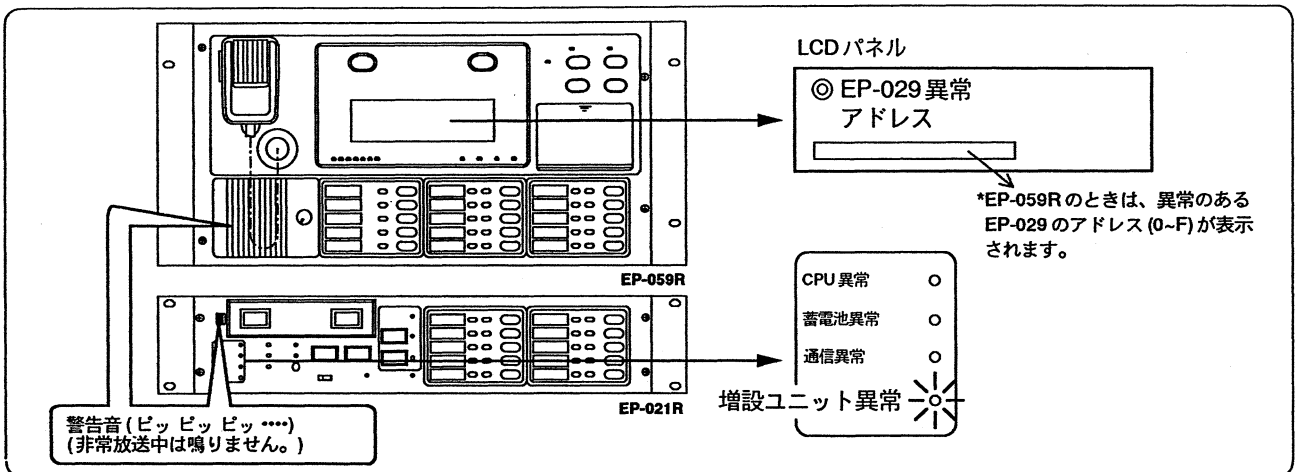
本体ラックの蓄電池の設置日を確認し、設置後4年以上経過しているようなときには交換の必要がありますので、販売店または保守契約店へただちにご連絡ください。

注意
遠隔操作器用 非常電源パネルDS-029Rの蓄電池に対する自動点検の機能はありません。手動点検を行なってください。(P. 28をご覧ください。)

再度異常表示がでるようなときは、販売店または保守契約店へただちにご連絡ください。警告音を停止させるときは、放送復旧スイッチを押します。

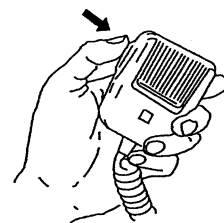
● EP029 異常/増設ユニット異常：遠隔操作器の増設操作パネル EP-029 に異常があります。

(異常の表示と処置のしかた)



再度異常表示がでるようなときには、販売店または保守契約店へただちにご連絡ください。
警告音を停止させるときには、放送復旧スイッチを押します。

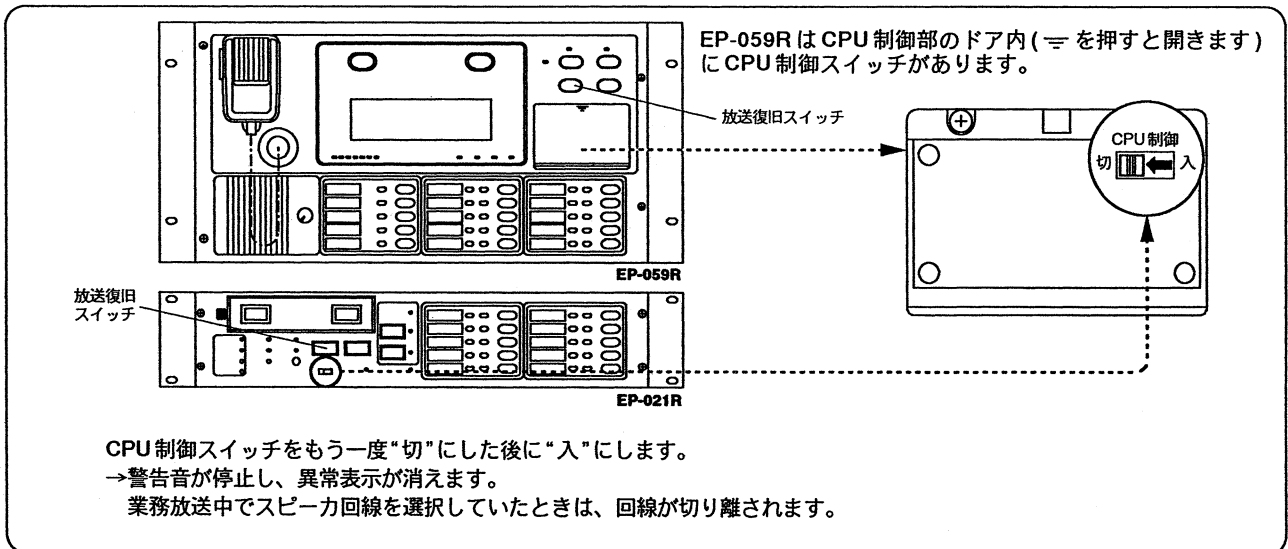
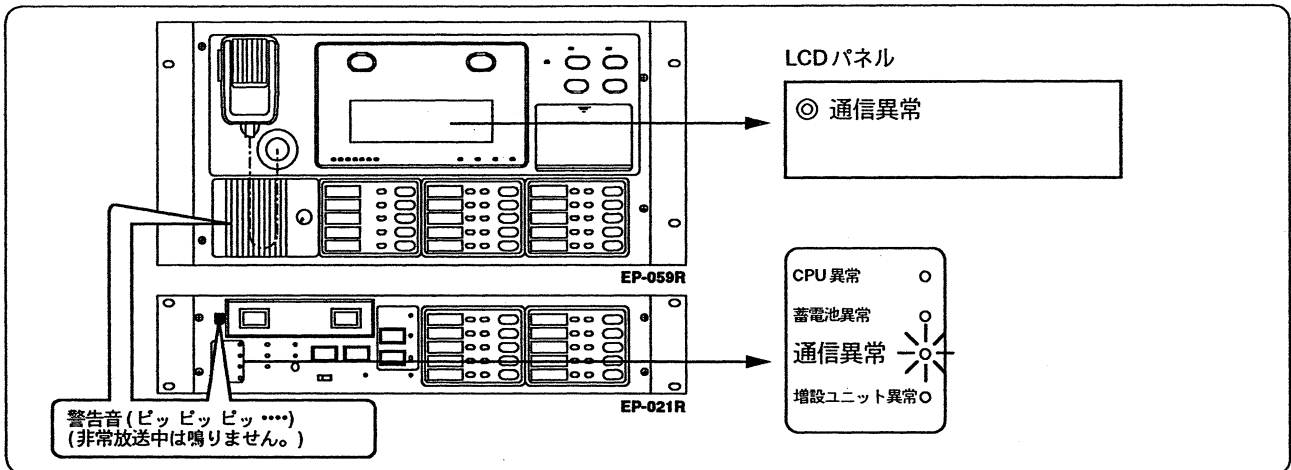
*とりあえず CPU 制御スイッチを“切”にしておきます。この状態では、非常・業務兼用マイクによる一斉放送だけができます。



マイクスイッチを押して放送します。

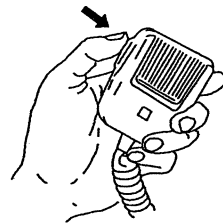
● 通信異常：本体ラック（JP-0410）との回線に異常があります。

（異常の表示と処置のしかた）



再度異常表示がでるようなときは、販売店または保守契約店へただちにご連絡ください。
警告音を停止させるときは、放送復旧スイッチを押します。

とりあえずCPU制御スイッチを“切”にしておきます。この状態では、非常・業務兼用マイクによる一斉放送だけができます。

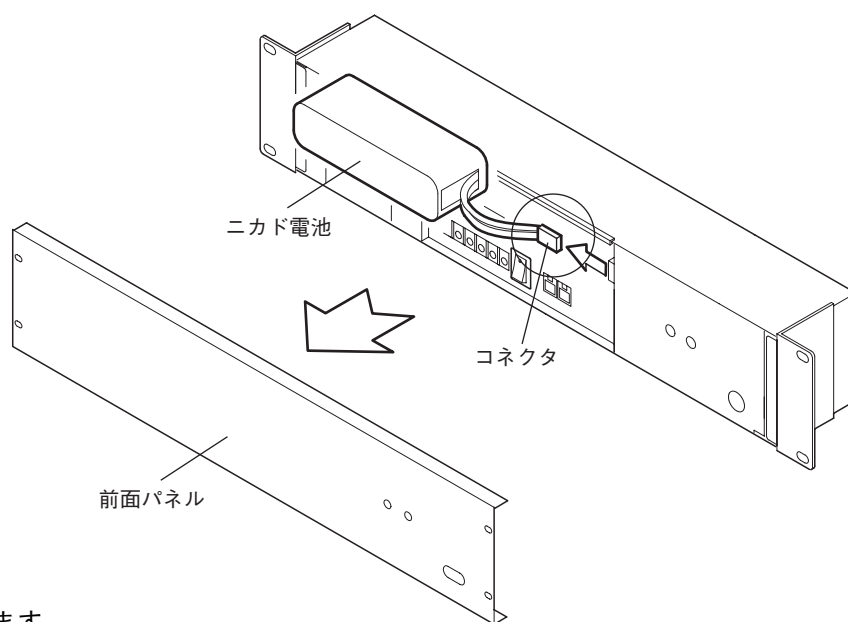


マイクスイッチを押して放送します。

ニカド電池の交換について

⚠ 注意

- ニカド電池を、ショート・分解・加熱・火の中に入れるなどしないでください。
- 取り出したニカド電池は、ショート防止のために、端子に絶縁テープを貼るなどの対策を行ってください。
- 乾電池など、ニカド電池以外の電池を混入しないでください。



1. 前面パネルを外します。
2. 蓄電池のコネクタを本体側から取り外します。
3. 収納スペースから蓄電池を取り出します。



ニカド電池のリサイクルにご協力ください。

使用済みのニカド電池は、捨てないで、お買い上げ店または弊社営業所へ返却してください。

| | | |
|---|---|--|
| TOA お客様相談センター | フリーダイヤル 0120-108-117 | 商品の価格・在庫・修理などのお問い合わせ、および |
| 商品の内容や組み合わせ、設置方法などについての技術的なお問い合わせにお応えします。 受付時間 9：00～17：00（土日、祝日除く） | ナビダイヤル 0570-064-475（有料） FAX 0570-017-108（有料） ※ PHS、IP 電話からはつながりません。 | カタログのご請求については、取り扱い店または最寄りの営業所へお申し付けください。最寄りの営業所については、TOA ホームページをご確認ください。 |

当社は、お客様から提供された個人情報をお問い合わせ対応または修理対応の目的に利用いたします。また、修理委託目的で委託先業者へ提供することがあります。個人情報の取り扱いに関する方針については、TOA ホームページをご覧ください。

TOA ホームページ <http://www.toa.co.jp/>

TOA 株式会社

133-12-534-4C